

環境影響評価事前調査書

(仮称)仙台市岩切山崎今市東土地地区画整理事業

平成 30 年 1 月

仙台市岩切山崎今市東土地地区画整理組合設立準備委員会

目 次

1. 対象事業の概要	1-1
1.1 事業者の名称及び所在地	1-1
1.2 対象事業の名称、種類及び目的	1-1
1.2.1 事業の名称	1-1
1.2.2 事業の種類	1-1
1.2.3 事業の目的	1-1
1.3 事業実施の位置	1-1
1.4 事業の内容	1-6
1.4.1 基本方針	1-6
1.4.2 事業概要	1-6
1.4.3 土地利用計画	1-7
1.4.4 公共施設整備計画	1-9
1.4.5 造成計画	1-11
1.4.6 交通計画	1-11
1.4.7 事業工程計画	1-11
1.5 環境の保全・創造等に係る方針	1-12
2. 事前調査対象範囲	2-1
3. 事前調査結果	3-1
3.1 水象	3-1
3.2 地形・地質	3-5
3.3 植物	3-10
3.4 動物	3-21
3.5 景観	3-29
3.6 自然との触れ合いの場	3-31
3.7 文化財	3-33
3.8 その他	3-37
4. 保全等に配慮すべき地域又は対象	4-1
4.1 保全等に配慮すべき地域又は対象の考え方	4-1
4.1.1 保全等に配慮すべき地域又は対象の選定基準	4-1
4.2 保全等に配慮すべき地域又は対象への影響の有無	4-4
4.3 保全等に配慮すべき地域又は対象の選定結果	4-12

4.4 保全等の観点から留意すべき事項又は環境配慮の方針	4-14
4.4.1 水象.....	4-14
4.4.2 地形・地質	4-14
4.4.3 植物.....	4-14
4.4.4 動物.....	4-14
4.4.5 景観.....	4-14
4.4.6 自然との触れ合いの場	4-14
4.4.7 文化財	4-15
4.4.8 その他	4-15

1．対象事業の概要

1. 対象事業の概要

1.1 事業者の名称及び所在地

事業者：仙台市岩切山崎今市東土地区画整理組合設立準備委員会

代表者：高野 秀策

所在地：仙台市宮城野区岩切字今市59番地の1

電話番号：022-255-8151

1.2 対象事業の名称、種類及び目的

1.2.1 事業の名称

(仮称)仙台市岩切山崎今市東土地区画整理事業（以下、「本事業」という。）

1.2.2 事業の種類

土地区画整理事業

1.2.3 事業の目的

事業予定区域の中央を南北に縦断する主要地方道仙台松島線の沿線においては、医療施設や商業施設、業務施設の建設が進んでいる。また、区域内においても医療施設や店舗、既存住宅が点在しており、周辺既存市街地と一体的な都市施設の整備や、区域の東側に計画されている仙台貨物ターミナル駅の移転計画（図1-1参照）と併せたまちづくりの整備が望まれている。

本事業は、道路等の公共施設の整備改善及び宅地の利用度を高め、健全で良好な市街地の形成を図るとともに、交通利便性を活かした商業・物流拠点の形成や、既存の小学校、医療、福祉施設等との連携を図り、居住環境の整備をすることにより、安心・安全・活力のあるまちづくりを目指すものである。

1.3 事業実施の位置

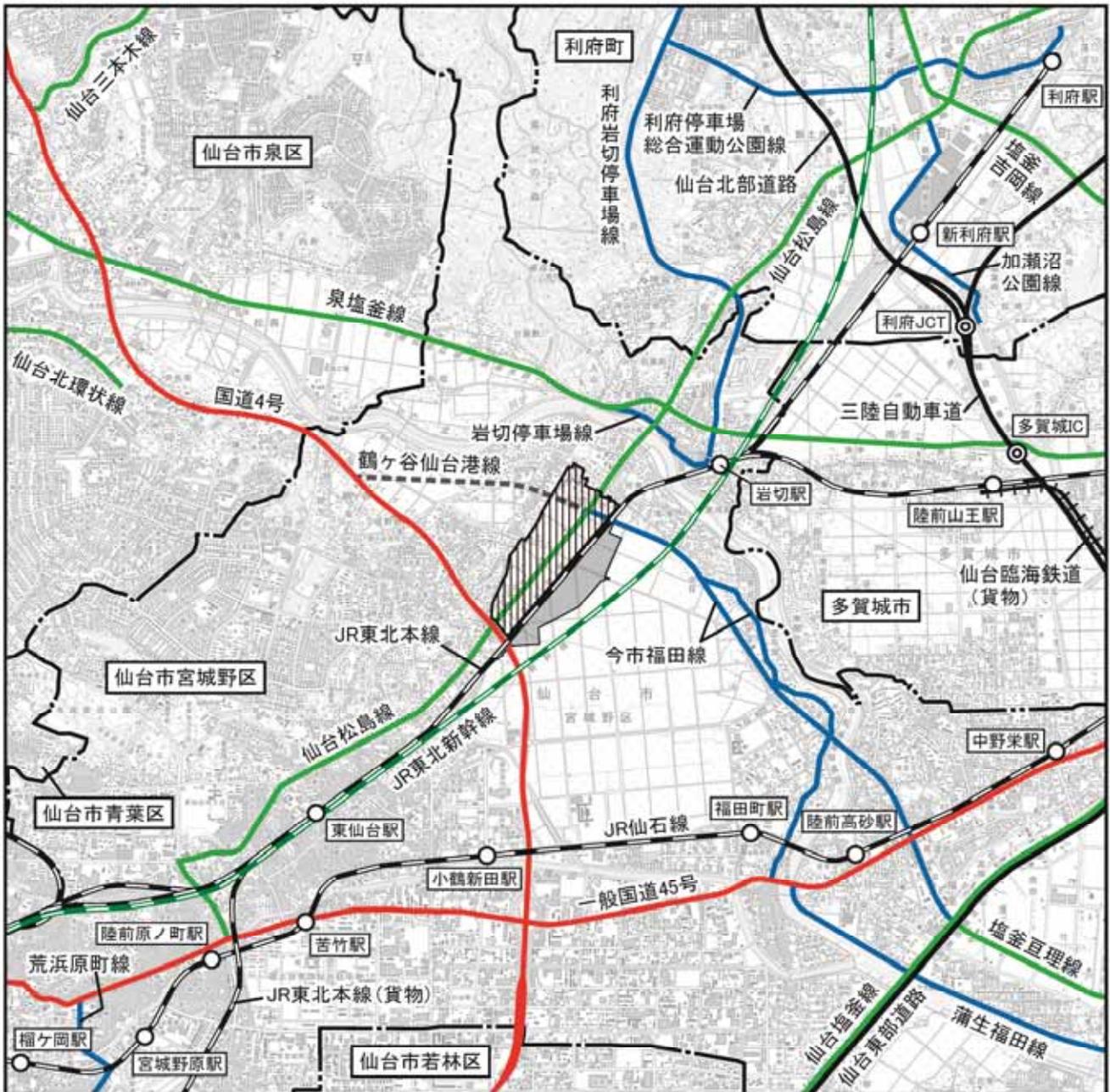
事業予定区域は、仙台市中心部から北東約6kmに位置し、東西約0.4km、南北約1.3kmの面積約51haの区域である。

事業予定区域の東側は東日本旅客鉄道株式会社（以下、「JR」という。）東北本線に接しており、JR東北本線東仙台駅と岩切駅との間に位置している。また、南側は国道4号に、西側及び北側は既存市街地に接しており、中央には、主要地方道仙台松島線が南北を縦断している。区域北部には県道今市福田線が東西に通じ、主要地方道仙台松島線に接続している。なお、県道今市福田線は、将来的には事業予定区域を横断する計画（都市計画道路鶴ヶ谷仙台港線）がある。

事業予定区域の所在地は以下のとおりであり、その位置は図1-1及び写真1-1に、周辺の状況は写真1-2(1)～(2)に示すとおりである。

仙台市宮城野区

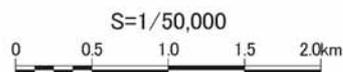
- ・岩切一丁目の一部
- ・岩切字 一本杉北、山神南の全部
今市東、山崎、中江北、山神北、一本杉南、一本杉中の各一部
- ・燕沢字 北田の一部

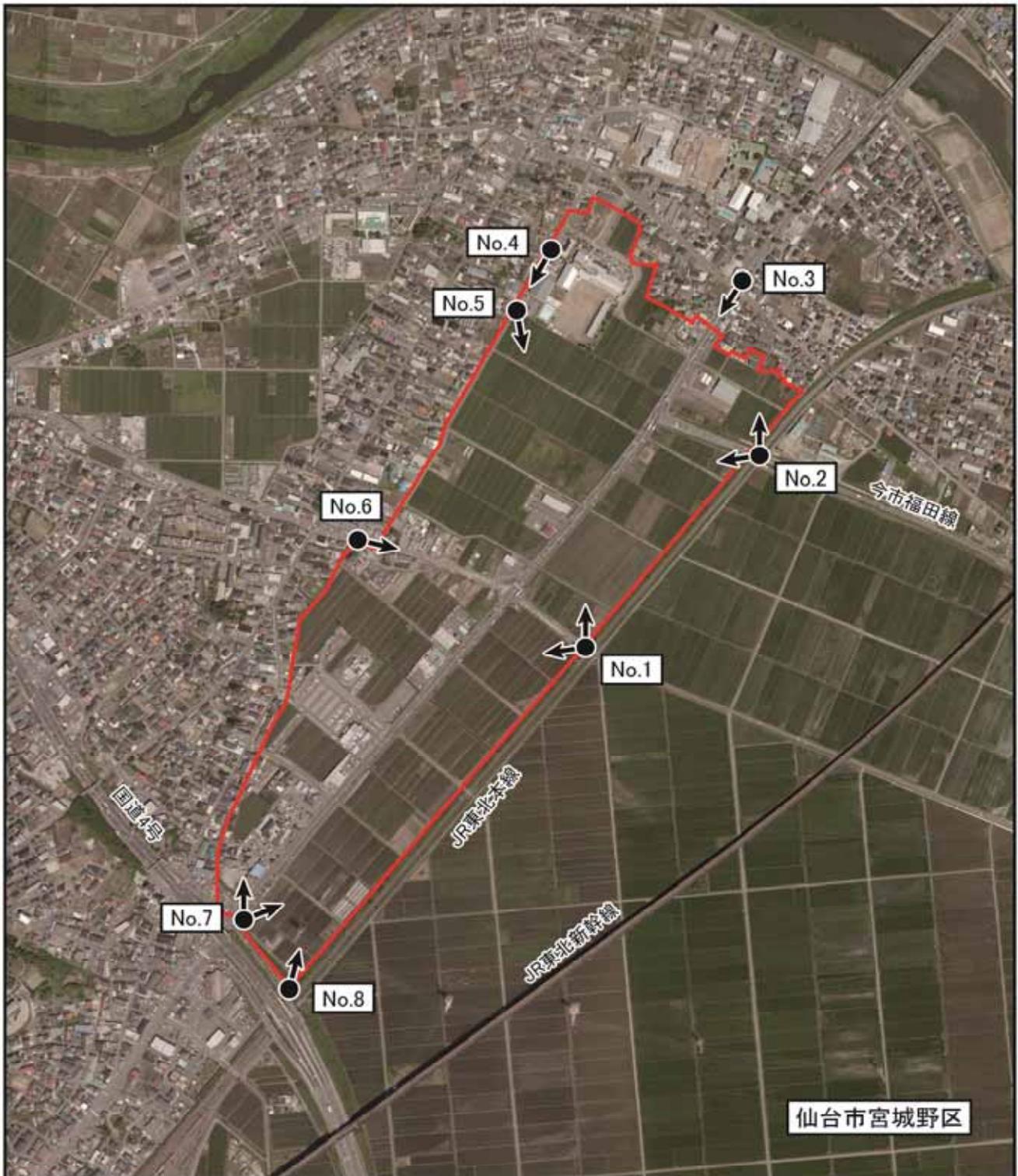


凡例

- | | | | |
|---|--------|---|-----------------|
|  | 事業予定区域 |  | JR新幹線 |
|  | 市町界 |  | JR在来線 |
|  | 区界 |  | 仙台臨海鉄道 |
|  | 高速道路 |  | 仙台貨物ターミナル駅移転計画地 |
|  | 国道 | | |
|  | 主要地方道 | | |
|  | 県道 | | |
|  | 都市計画道路 | | |

図1-1 事業予定区域の位置





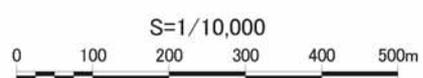
凡 例

平成27年7月2日撮影

- 事業予定区域
- ➔ 写真撮影地点・方向

注) No.は、写真1-2(1)~(2)に対応する。
 出典：「地図・空中写真閲覧サービス」(国土地理院ホームページ)

写真1-1 空中写真





No.1 大井川踏切（西方向）



No.1 大井川踏切（北方向）



No.2 県道今市福田線（西南西方向）



No.2 県道今市福田線（北方向）



No.3 岩切歩道橋（南方向）



No.4 市道今市9号線（南西方向）



No.5 岩切中区公民館付近（南方向）



No.6 市道岩切山崎1号線（東方向）

平成29年7月19日撮影

写真1-2(1) 事業予定区域周辺の状況（No.1～6）



No.7 主要地方道仙台松島線（北方向）



No.7 主要地方道仙台松島線（北東方向）



No.8 国道4号跨線橋

写真1-2(2) 事業予定区域周辺の状況（No.7～8）

平成29年7月19日撮影

1.4 事業の内容

1.4.1 基本方針

宮城県では、平成30年度に「仙塩広域都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」(区域マスタープラン)を策定する予定であり、これに併せ、仙台市では、都市計画審議会の審議を経て、平成29年3月に「仙塩広域都市計画 区域区分の見直しに係る仙台市案」を宮城県へ提出している。

その中において、事業予定区域は、市街化区域に編入する区域とされており、都市計画道路や国道4号に近接していることから、物流拠点等へのアクセス性が高く、また、移転事業が進む仙台貨物ターミナル駅との近接性により、流通業務地としての必要性も高まっていると評価されている。

以上のことから、本事業では、既存の主要地方道仙台松島線などの交通利便性を活かした流通業務系の土地利用を図るとともに、居住系土地利用のエリアや地区内幹線道路、公園を配置するなど、周辺の既存市街地との調和や環境にも配慮した土地利用を計画する。

なお、優れた市街地環境を確保するため、街づくりのルールを定めた地区計画を策定することを検討する。

1.4.2 事業概要

本事業の概要は、表1-1に示すとおりである。

表1-1 本事業の概要

項目	内容
事業名称	(仮称)仙台市岩切山崎今市東土地区画整理事業
種類	土地区画整理事業
位置	仙台市宮城野区岩切一丁目 外
面積	約51.0ha
主要用途	宅地(住宅地、物流用地)
計画人口	約580人(計画戸数:約240戸)
工事予定期間	平成34年1月～平成37年2月
保留地処分期間	平成34年1月～平成37年2月(処分後建築物の建設可能)
環境影響評価を実施することになった要件	「仙台市環境影響評価条例施行規則」(平成11年3月17日、仙台市規則第6号) 地域区分: A地域 対象事業の要件: 施行地区(土地区画整理法第2条第4項に規定する施行地区)の面積が10ヘクタール以上であるもの

1.4.3 土地利用計画

土地利用計画は、表 1-2 及び図 1-2 に示すとおりである。

事業予定区域の現況土地利用は、水田が 32.1ha（約 63%）、畑・雑種地が 2.2ha（約 4%）、市街地（宅地、道路等）が 16.7ha（約 33%）となっている。

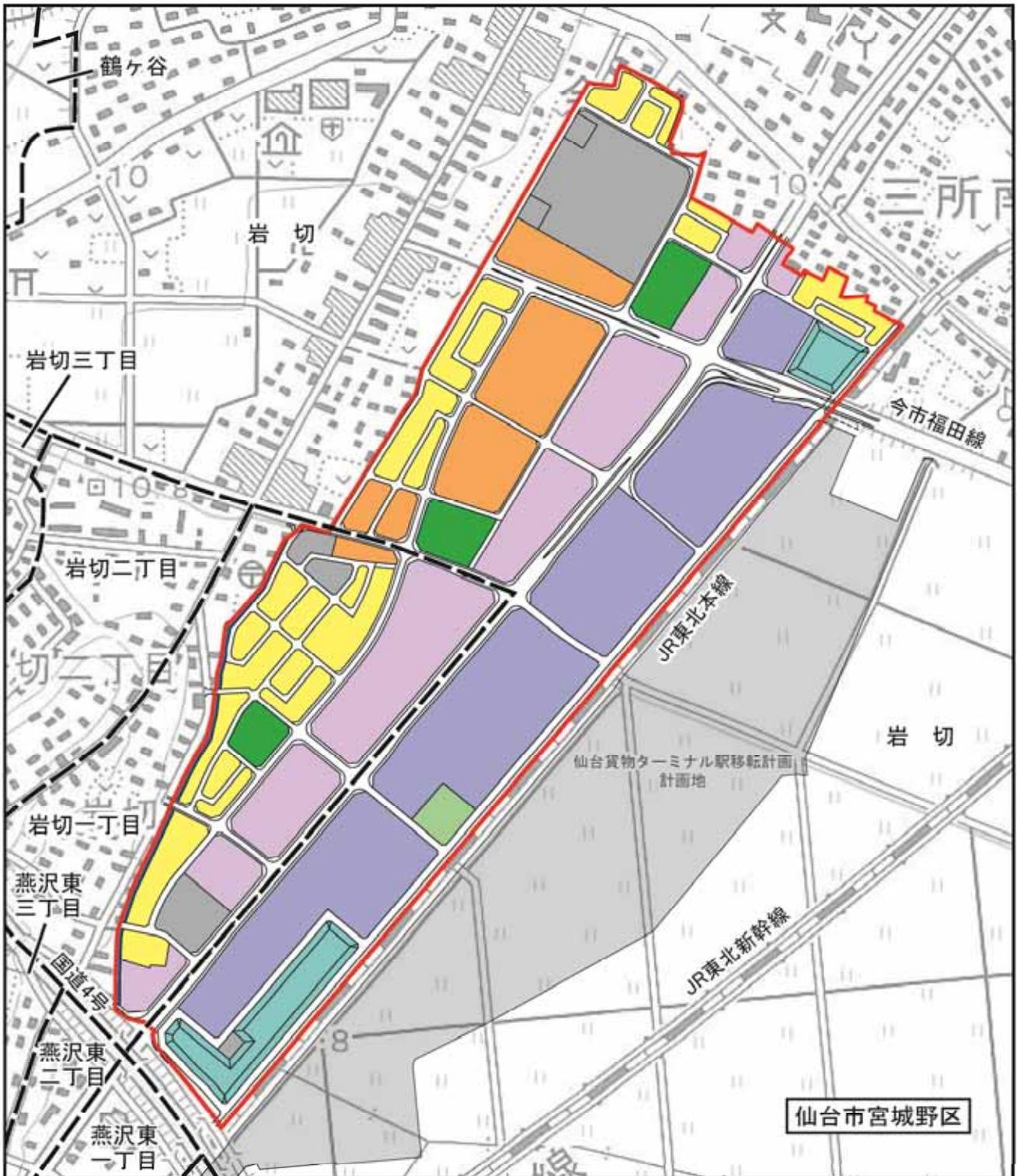
本事業の土地利用は、業務施設用地等が 24.6ha（48.2%）、住宅用地が 5.9ha（11.6%）、公益施設用地が 4.0ha（7.9%）及び道路・公園等の公共用地が 16.5ha（32.3%）と計画している。

表1-2 土地利用計画

	面積（ha）	割合（%）	備考
沿道サービス・業務施設用地	7.9	15.5	
流通業務施設用地	12.5	24.5	
近隣サービス施設用地	4.2	8.2	
住宅用地	5.9	11.6	
公益施設用地	4.0	7.9	広場含む
公園	1.6	3.1	
道路用地	12.7	24.9	
水路用地	0.1	0.2	
調整池	2.1	4.1	
計	51.0	100.0	

注1) 沿道サービス施設：ドライブイン、ガソリンスタンド、飲食店等の幹線道路沿いに位置する施設

注2) 近隣サービス施設：スーパーマーケット、ドラッグストア等の周辺住民のためのサービス施設



仙台市宮城野区

凡例

- | | | | |
|--|---|---|---|
|  事業予定区域 |  沿道サービス・業務施設用地 |  公益施設用地 |  水路 |
|  町丁目界 |  流通業務施設用地 |  公園 |  調整池 |
| |  近隣サービス施設用地 |  広場 | |
| |  住宅用地 |  区画道路等 | |

図1-2 土地利用計画図



1.4.4 公共施設整備計画

(1) 道路計画

中央部に整備されている主要地方道仙台松島線を骨格道路として、土地利用上必要となる区画道路等を計画的に配置する。また、歩行者ネットワークを考慮し、歩行者の安全で快適な歩行空間と動線を確保する計画である。

(2) 公園・広場計画

公園については、土地区画整理法施行規則に基づき事業予定区域面積の3%以上を確保し、居住者等の利用等に配慮した配置計画である。また、業務系土地利用地内に公共広場を1ヶ所配置する。

(3) 排水計画

雨水排水・用水計画は、図1-3に示すとおりである。

事業予定区域は、現況では市道岩切山崎1号線を境に南北に流域が分かれており、区域に降った雨及び上流から流入する雨水は、区域東側のJR東北本線沿いに設置されている排水路により北側は水車堀に、南側は高野川へ流入している。

事業予定区域内の水路については、周辺の利水状況を踏まえながら、改廃・再配置を行う。

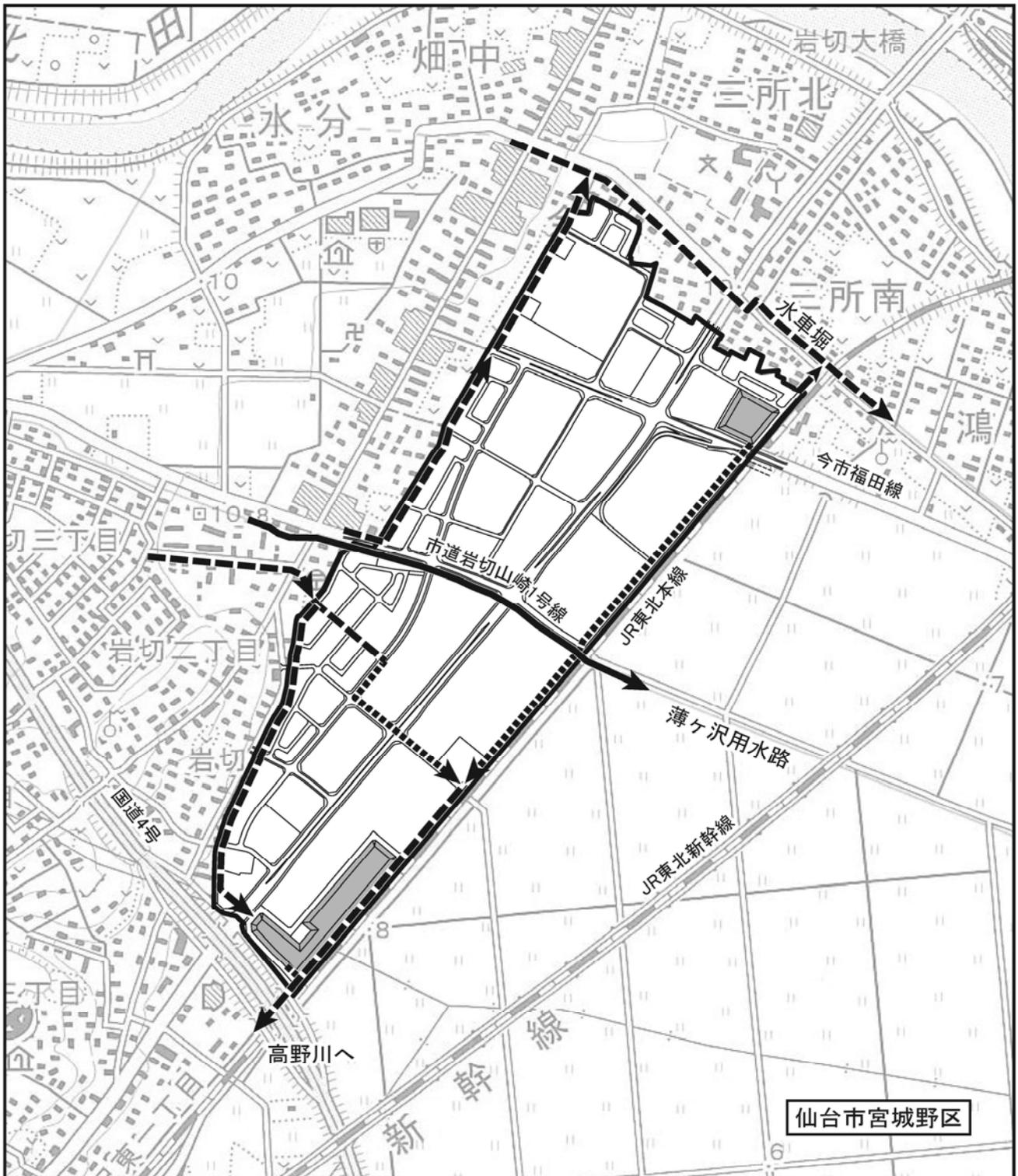
雨水排水については、下流域への洪水影響を回避するため、「宮城県防災調整池設置指導要綱」(平成8年1月、宮城県)に基づき、事業予定区域内に設置する南北2ヶ所の防災調整池(北側：水深約2.0m、南側：水深約1.8m)により、放流量を調整のうえ、排水路に放流する計画である。

なお、現況において水車堀下流域で冠水が見られることから、北側の調整池からの雨水排水は水車堀には流入させないよう排水路の新設・付け替えを行い、全て南側の排水路へ流入させ、高野川へ排水させる計画である。その後梅田川を経て七北田川に流入する。また、市道岩切山崎1号線沿いにある薄ヶ沢用水路については、現況保全を図る計画である。

事業予定区域の汚水排水は、汚水管を埋設して、既存の公共下水管に接続させる計画である。

(4) 供給計画

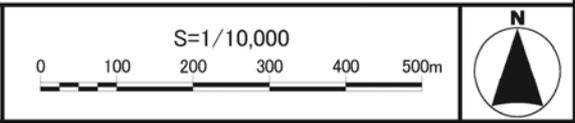
水道・電気・電話・ガス等は、関係機関との調整を図り、土地利用に合わせた供給を図る計画である。



凡 例

- 事業予定区域
- 市町界
- 区 界
- 雨水路 (現況)
- 用水路 (現況)
- 雨水路 (新設・付け替え)
- 調整池

図1-3 雨水排水・用水計画図



1.4.5 造成計画

事業予定区域は、現況では約67%が水田や畑として、それ以外は住宅や業務地及び公共公益用地として利用されており、水田や畑等は周辺市街地及び周辺道路の高さ（標高）に合わせて約1.9～2.2mの盛土を行い、宅地排水を考慮して平坦な地形に整地する計画である。

事業予定区域の盛土材は、区域外（現段階では未定）から搬入する計画とし、事前に土壤汚染調査を実施して汚染がないと判断された土壌を使用する。

また、調整池の建設に伴う掘削土を事業予定区域内において盛土材として利用する計画であることから、残土の発生はなく、区域外への搬出も行わない。

なお、軟弱な地盤が想定されるため、プレロードを行う計画である。

1.4.6 交通計画

本事業の土地利用計画における発生集中交通量は、約2,300台/日を想定している。

事業予定区域を南北に通過する主要地方道仙台松島線は、現状において慢性的に渋滞していることから、本事業の実施により交通環境に更なる負荷をかけないように、関係機関との協議を踏まえ、交差点改良（信号サイクルの見直し、交差点改良工事）等の対策を検討する。

1.4.7 事業工程計画

本事業の工程は、表1-3に示すとおり、工事着工時期は平成34年1月を予定しており、平成37年2月までの38ヶ月間の工事を予定している。また、工事が完了した工区から順次保留地処分を行う予定である。なお、工期の区分等は、現段階で未定である。

工事完了後は、換地処分・登記を経て、平成38年11月の組合解散を予定している。

なお、事業予定区域については、市街化区域編入のための手続きが進められており、平成32年7月ごろに都市計画変更（市街化区域編入）が予定されている。

表1-3 事業工程

平成 年度	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38
都市計画	■			■						
基本計画・基本設計	■	■	■	■						
環境影響評価		■	■	■						
事業認可				■						
実施設計・換地設計				■	■					
工事・保留地処分						■	■	■	■	
換地計画・処分・登記									■	■
組合解散										■

1.5 環境の保全・創造等に係る方針

本事業における環境の保全・創造等に係る方針は、表1-4に示すとおりである。

事業予定区域は、「杜の都環境プラン」(仙台市環境基本計画)に示されている東部田園地域に位置していることから、同プランに示す土地利用に対する配慮事項を考慮しつつ、本事業の実施による影響を最小限に留めることを保全方針とする。

表1-4 環境の保全・創造等に係る方針

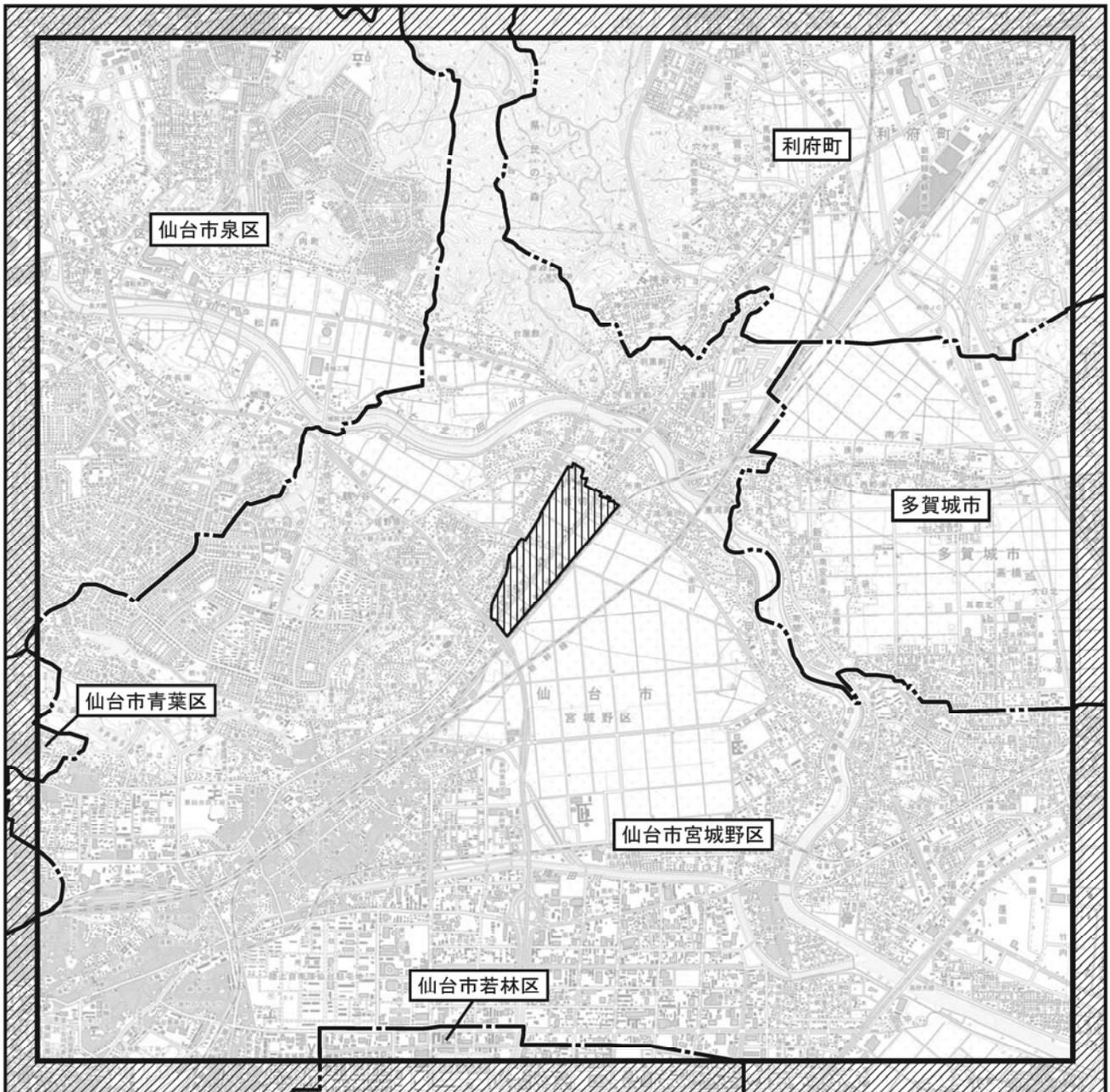
項目	環境の保全・創造等に係る方針
土地利用計画	<ul style="list-style-type: none"> ・流通業務施設用地と住宅用地の間に、沿道サービス・業務施設用地や近隣サービス施設用地を配置し、緩衝機能を持たせる。 ・周辺既存市街地との調和や環境に配慮した土地利用計画とする。 ・周辺環境に対して電波障害、日照障害、風害等が生じないように、建築物の高さ制限を設けた地区計画を検討する。 ・建築物の周囲にできる限りの緑化が図られるよう、地区計画等を検討する。
公園・広場計画	<ul style="list-style-type: none"> ・植物や動物の生育・生息環境が図られるよう、公園や街路樹の植栽樹種を検討する。 ・植栽に際しては、できる限り在来種の採用を検討する。 ・雨水の地下浸透が図られるよう、公園計画等で検討する。
排水計画	<ul style="list-style-type: none"> ・事業予定区域内の水田が持つ保水機能を代替するため、当該区域内に2ヶ所の防災調整池を整備する。 ・雨水排水については、下流排水路の冠水状況を踏まえて排水路の新設・付け替えを行う。 ・汚水排水については、公共下水道を整備し、既存住宅等の生活環境の改善を図る。
造成計画	<ul style="list-style-type: none"> ・軟弱な地盤が想定されるため、プレロードにより沈下を促進し、残留沈下量を軽減する。 ・また、プレロードにより地盤を締め固めることで、想定される液状化への抵抗を高める。
交通計画	<ul style="list-style-type: none"> ・交通渋滞の低減を図るよう、交差点改良(信号サイクルの見直し・交差点改良工事)等の対策を検討する。
工事計画	<ul style="list-style-type: none"> ・排出ガス対策型、低騒音型の建設機械の採用に努め、大気汚染、騒音・振動及び温室効果ガス排出の低減を図る。 ・工事用車両は低排出ガス認定自動車の採用に努め、大気汚染、温室効果ガス排出の低減を図る。 ・建設資材は、コンクリート二次製品の使用に努め、水質汚染の低減を図る。 ・工事中の濁水対策として仮設沈砂池を設置し、濁水流出の軽減を図る。 ・事業予定区域周辺の水生植物・動物の生育・生息に配慮して、仮設沈砂池を早期に整備して、周辺排水路への濁水の影響をできる限り抑制する。 ・動物への影響を低減させるため、工事の段階的な施工に努めるよう、工事工程を検討する。 ・建設廃棄物の減量化に努め適正に処理を行う。 ・工事用車両や重機の稼働が一時的に集中しないよう、工程の平準化に努める。 ・工事用車両及び重機等の運転者へは、不要なアイドリングや空ぶかし、過積載や急加速等の高負荷運転をしないよう、指導・教育を徹底する。

2. 事前調査対象範囲

2. 事前調査対象範囲

事前調査対象範囲（以下、「調査範囲」という。）は、事業の立地に際して特に配慮すべき事項を明らかにするために、動植物等の自然環境が豊かな地域や、地形・地質、景観資源の豊富な地域等の地域の環境特性を把握できる範囲とし、事業予定区域を中心とした8km四方の範囲とした。

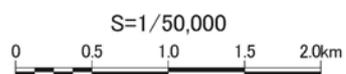
調査範囲は、図2-1に示すとおりである。



凡 例

-  事業予定区域
-  市町界
-  区 界
-  事業予定区域を中心とした8km四方の範囲

図2-1 事前調査範囲



3 . 事前調查結果

3. 事前調査結果

3.1 水象

(1) 河川・湖沼等の分布の状況

主要な河川・湖沼等の分布は、図3-1に示すとおりである。

事業予定区域北側約480mには二級河川七北田川があり、事業予定区域の北西側から南東側へと流れている。また、南側約950mには二級河川高野川があり、事業予定区域の南南東側約2.1kmの地点で二級河川梅田川に合流し、さらに約2.8km下流の地点で七北田川に合流している。主要な河川の概要は、表3-1に示すとおりである。

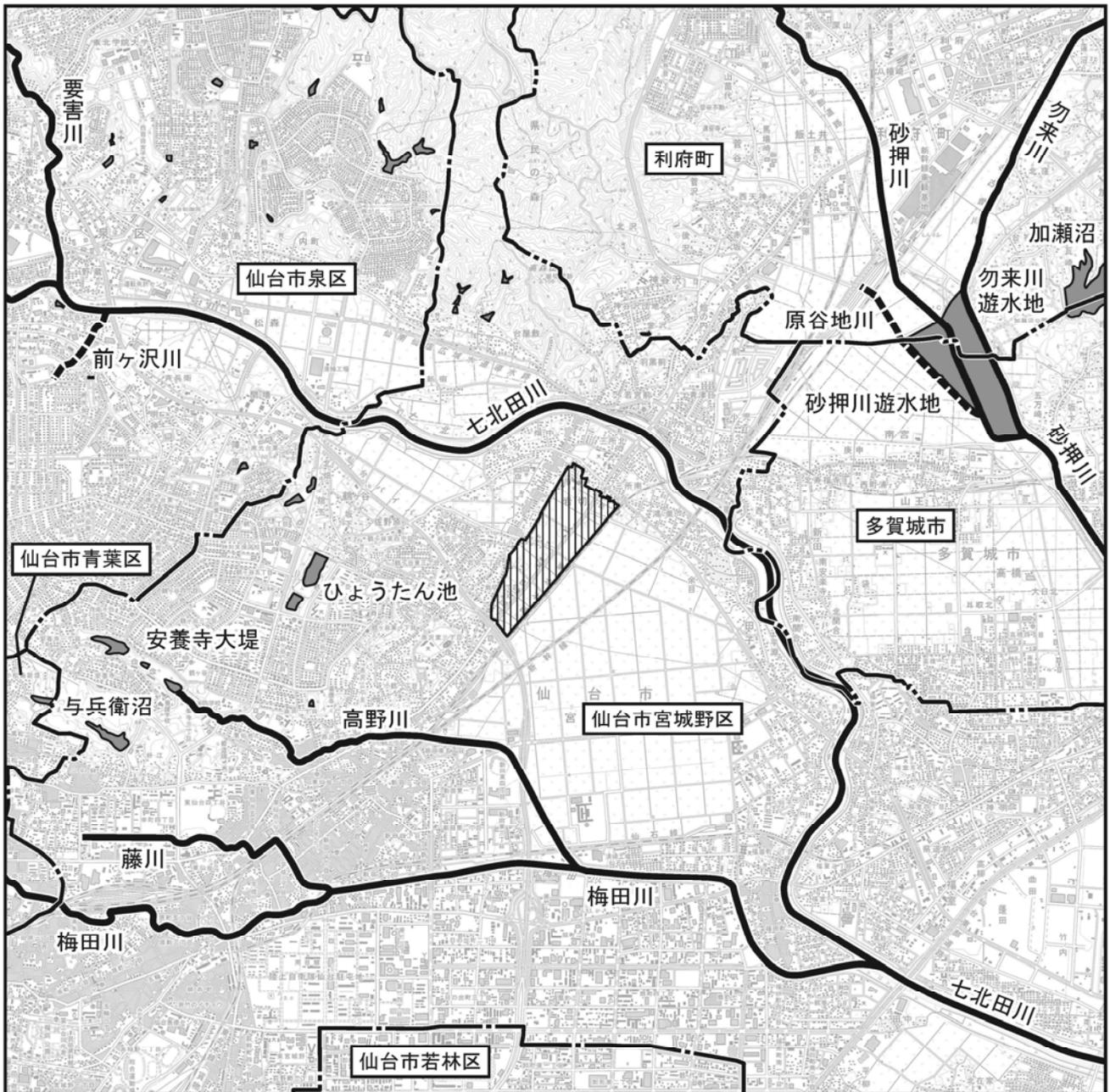
主要な湖沼は、事業予定区域西側約1.5kmにひょうたん池、東北東側約2.9kmに砂押川遊水地、東北東側約3.9kmにその一部が多賀城市と利府町にかかる加瀬沼等がある。

その他、事業予定区域北西側の仙台市泉区内をはじめ、周辺には溜池も点在している。

表3-1 主要な河川

種 別	河川名	総延長(m)
二級河川	七北田川	40,899
	梅田川	13,035
	高野川	3,900
	藤川	1,500
	要害川	6,000
	勿来川	7,456
	砂押川	14,491
準用河川	前ヶ沢川	510
	原谷地川	1,400

出典：「宮城県河川・海岸図」（平成29年3月、宮城県）

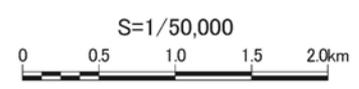


凡 例

-  事業予定区域
-  市町界
-  区 界
-  二級河川
-  準用河川
-  湖 沼 (主要な湖沼のみ名称記載)

出典：「宮城県河川・海岸図」(平成29年3月、宮城県)
 「平成27年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(平成28年3月、仙台市)

図3-1 水象の状況



(2)地下水・湧水の状況

仙台市内では平成11年度の調査において5,325ヶ所（うち、宮城野区では41ヶ所）、多賀城市内では平成21～22年度の調査において20ヶ所の飲用井戸が確認されている。利府町においては、調査は行われていない（平成29年10月、利府町生活安全課聞き取り）。

なお、調査範囲に湧水は存在しない。

(3)水辺の状況

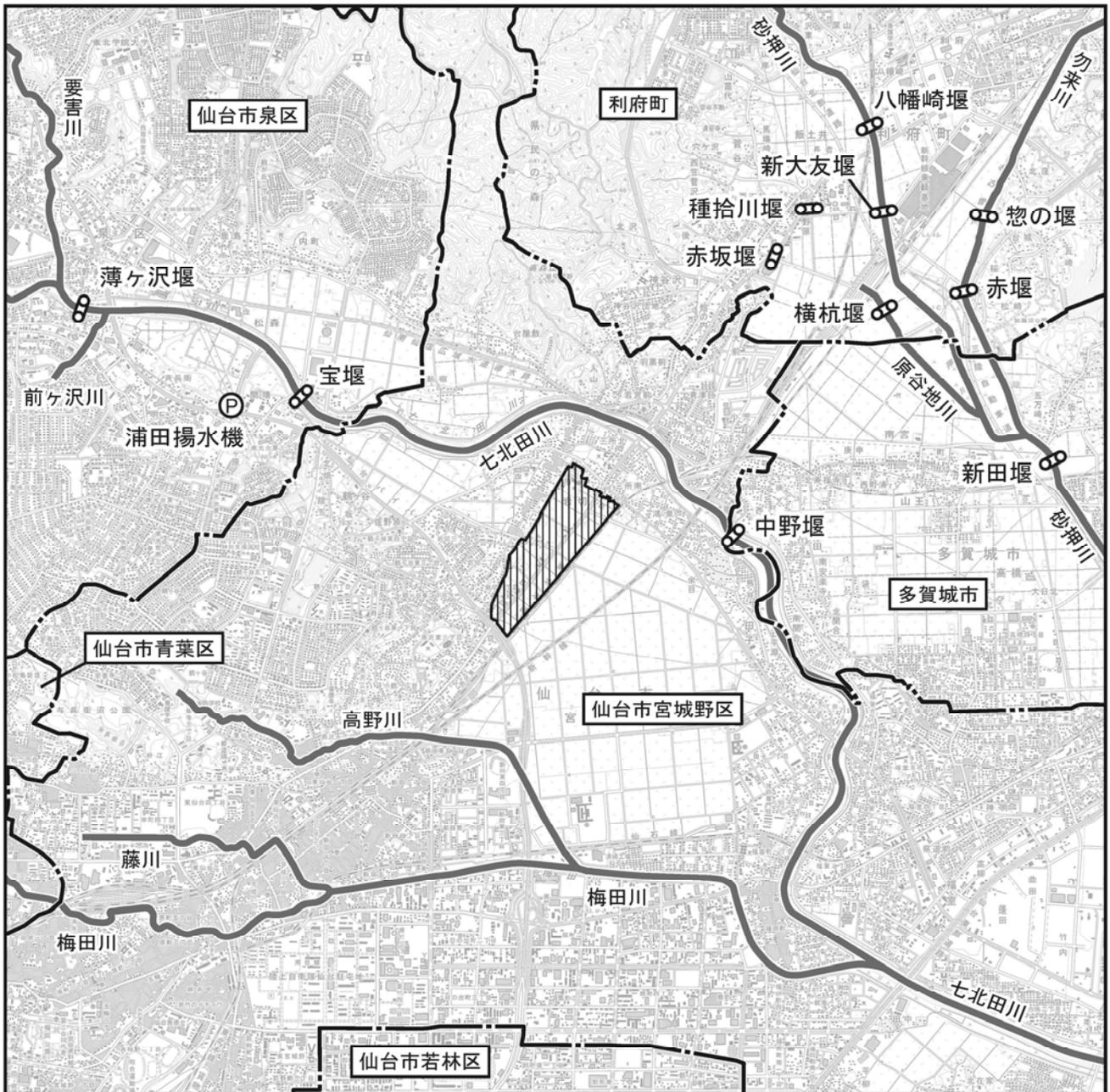
七北田川や砂押川等の川沿いには、ヨシクラス、ヤナギ低木群落、ススキ群団、自然裸地等が、鶴ヶ谷中央公園内にはヒルムシロクラスが分布しており、そのうち、植生自然度10であるヨシクラス及びヒルムシロクラス、植生自然度9であるヤナギ低木群落は、仙台市において「自然性の高い植生」として位置づけられている。また、多賀城市と利府町にまたがる加瀬沼にはヒルムシロクラス（植生自然度10）が分布している（「3.3 植物 (2)植生の状況」(p.3-15) 参照）。

(4)水源地の状況

主要な水源地としては、事業予定区域北側約480mに流れる二級河川七北田川の最上流部に七北田ダムが存在する。

農業用水については、堰や揚水機等の河川取水施設やため池等から供給されており、事業予定区域周辺には、図3-2に示すとおり七北田川の薄ヶ沢堰から供給されている。

工業用水については、仙塩工業用水道事業及び仙台圏工業用水道事業により給水されている。

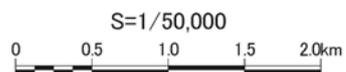


凡 例

-  事業予定区域
-  市町界
-  区 界
-  河 川
-  堰
-  揚水機

出典：「河川取水施設図」(平成20年3月、宮城県農林水産部)

図3-2 河川取水施設位置図



3.2 地形・地質

(1) 地形・地質の状況

地形の状況は、図3-3に示すとおりである。

仙台市は東側が太平洋に面し、西に向かって、沖積平野・台地、丘陵地、山地が分布し、西端部は奥羽山脈となっている。また、奥羽山脈を源として名取川、広瀬川、七北田川が市域を西から東に流下して太平洋へ注いでいる。調査範囲のうち、七北田川沿い及び東側は沖積平野であり、北側及び西側は丘陵地である。事業予定区域は、西側の一部を丘陵地に接した沖積平野に位置し、平坦な地形である。

地質の状況は、図3-4に示すとおりである。調査範囲のうち、七北田川沿い及び東側は砂及び粘土を主とした沖積層であり、西側は砂岩、凝灰岩、礫岩等を主とした亀岡層、七北田層等が分布している。事業予定区域は、砂及び粘土を主とした沖積層に位置する。

なお、事業予定区域の隣接地における「環境影響評価書 ー仙台貨物ターミナル駅移転計画ー」（平成29年10月、日本貨物鉄道株式会社）によると、隣接地は砂質土層や粘性土層の互層構造の沖積層厚が約9～12m分布し、「液状化の判定を行う必要がある土層が存在している」とされている。また、現況地形における液状化危険度の予測結果は、「液状化危険度は低い」及び「液状化危険度が高い」とされている。事業予定区域においても同様のことが想定される。

(2) 注目すべき地形・地質

注目すべき地形・地質は、表3-2及び図3-5に示すとおりであり、活断層地形の「長町・利府」及び「大年寺山」が存在する。

事業予定区域内には、「長町・利府」が存在している。

表3-2 注目すべき地形・地質

No.	名称	備考
1	長町・利府	活断層地形
2	大年寺山	活断層地形

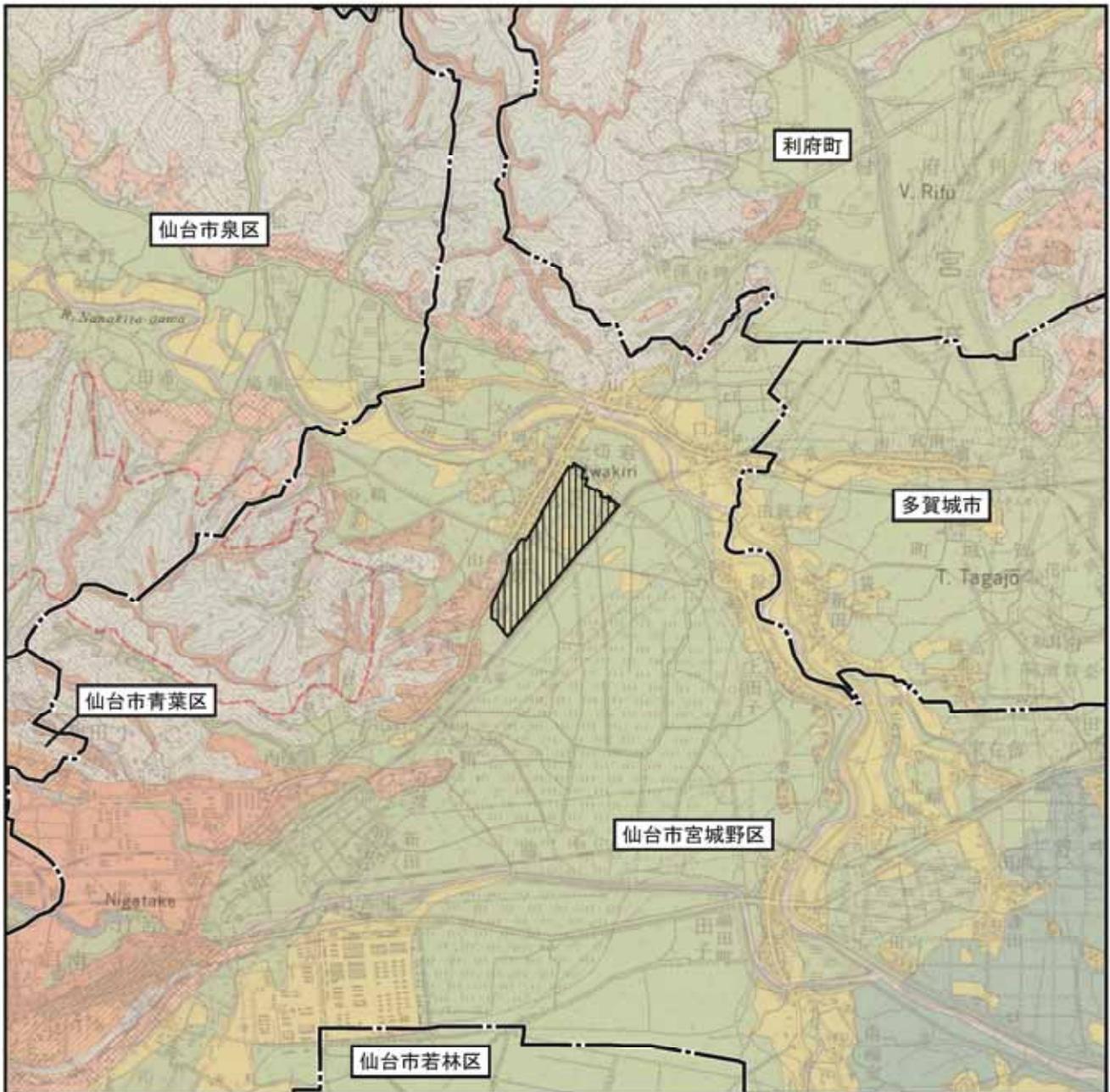
注) No.は、図3-5に対応する。

出典：「平成28年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（平成29年3月、仙台市）

(3) 災害危険地形

調査範囲における災害の危険箇所は、図3-6に示すとおりであり、「急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律」に基づく指定地域（急傾斜地崩壊危険区域）や、急傾斜地崩壊危険箇所、土石流危険渓流及び土石流危険区域が存在する。

なお、事業予定区域内には、これら危険箇所は存在しない。



凡 例

-  事業予定区域
-  市町界
-  区 界

丘陵地

-  丘頂緩斜面および丘腹緩斜面
-  丘麓緩斜面
-  急斜面(谷密度80以上)
-  急斜面(谷密度80未満)

砂礫台地

-  Gt I (上位)
-  Gt II+(中位)
-  Gt II (中位)
-  Gt III+(下位)
-  Gt III (下位)

岩石台地

-  Rt I (上位)
-  Rt II (中位)
-  Rt III (下位)

低 地

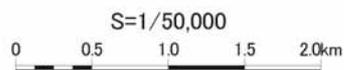
-  谷底平野
-  自然堤防および砂堆・浜堤
-  海岸平野
-  河原および浜

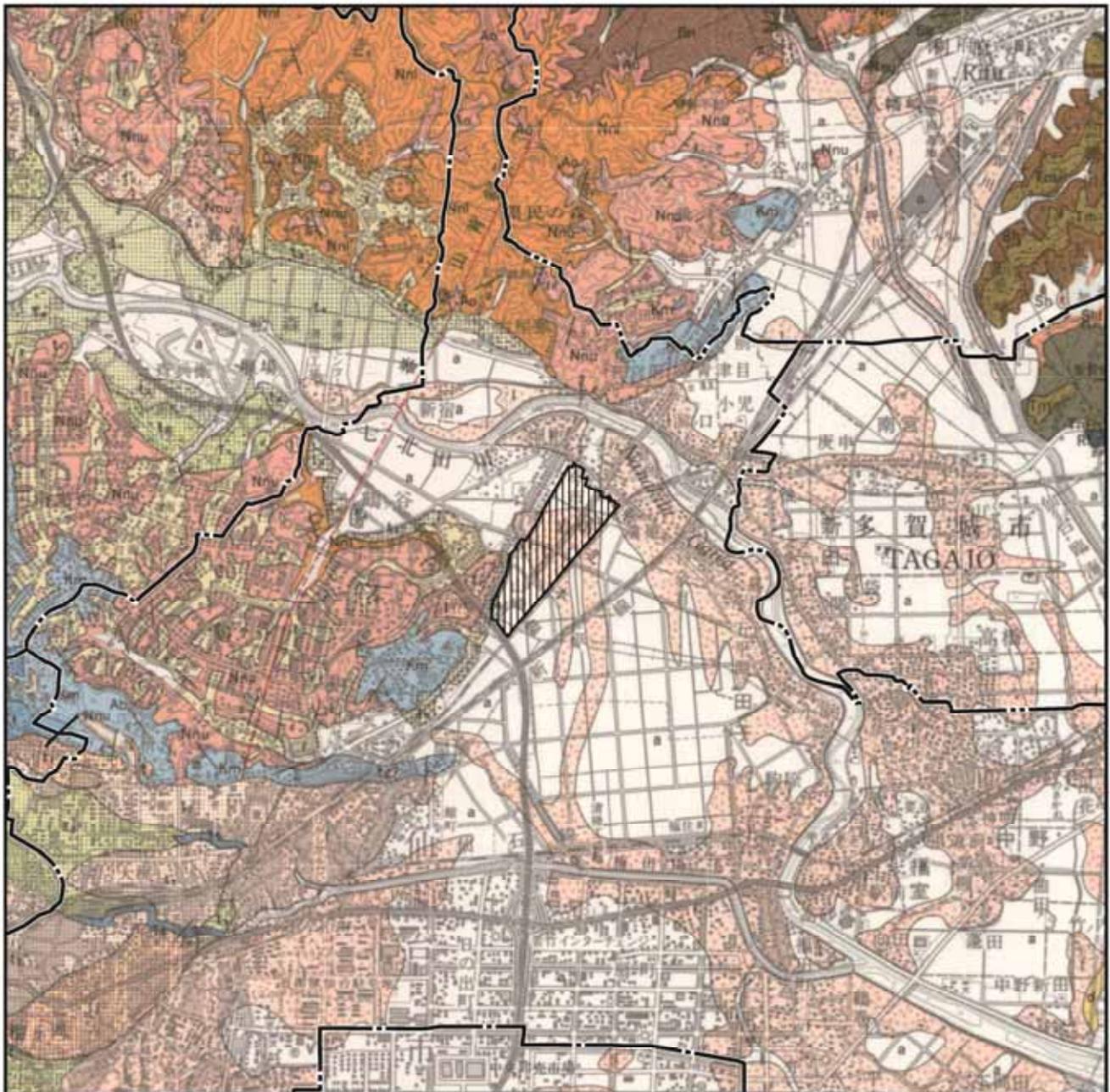
その他

-  湿 地
-  泥炭地
-  崖
-  人工平坦界(昭和40年5月現在)

出典：「土地分類基礎調査 地形分類図(仙台)」
(昭和42年3月、経済企画庁)

図3-3 地形分類図





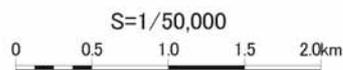
凡例

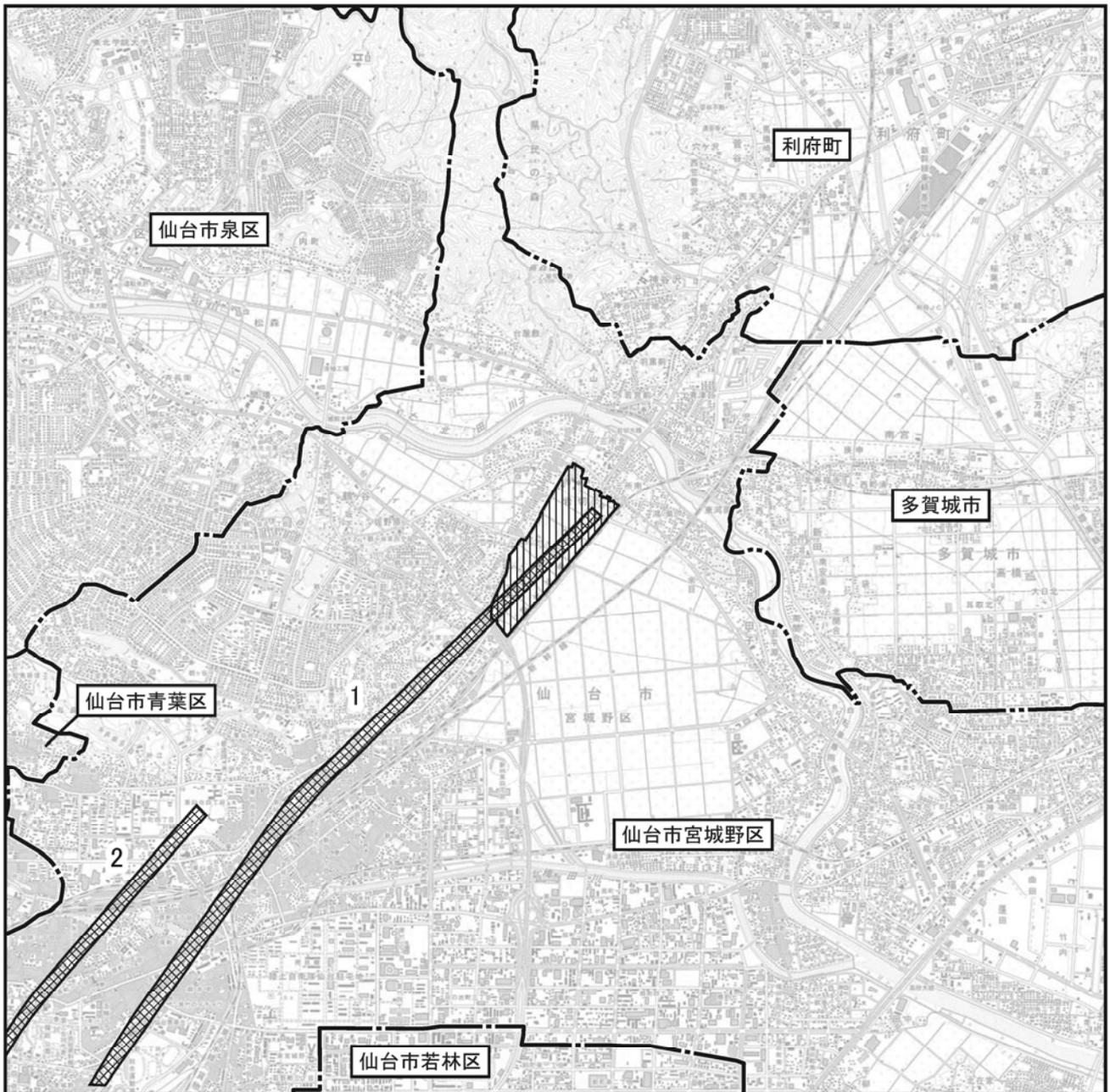
 事業予定区域
  市町界
  区界

埋谷土	r	土砂	竜の口層	Tk	シルト岩・砂質シルト岩・凝灰岩及び砂岩
沖積層	a	砂及び粘土(部分的に多賀城火山灰を挟む)	亀岡層	Km	砂岩・凝灰岩・シルト岩・垂炭及び礫岩又は砂混じり砂岩
	i	砂	七北田層	Nnu	砂岩(凝灰岩薄層を挟む)
河岸段丘堆積物	d	砂	入菅谷層	Nsu	砂岩・軽石凝灰岩及び礫岩
	ts	礫層・砂層及び粘土層	青森層	As	砂岩・シルト岩及び凝灰岩
	tl	礫層・砂層及び粘土層(一部永野火山灰に覆われる)	番ヶ森山層	Sns	軽石質砂岩及び礫岩
青葉山層	tl	礫層・砂層及び粘土層	佐浦町層	Ssu	凝灰質砂岩及び凝灰質シルト岩(凝灰岩薄層を挟む)
	ts	礫層・砂層及び粘土層(一部愛島火山灰に覆われる)	塩釜層	Sht	火山円礫岩・凝灰岩及び凝灰質砂岩
留ヶ谷層	ts	粘土質火山灰及び軽石質細粒火山灰	利府層	Rf	頁岩・砂質頁岩及び砂岩
	ts	礫層・砂層及び粘土層(泥岩を挟む)			
	ts	砂岩及び礫岩			
	ts	地層の走向及び傾斜			
					
					
					

出典：「5万分の1地質図幅(仙台)」(昭和61年3月、地質調査所)(産総研地質調査総合センターウェブサイトより)

図3-4 地質図



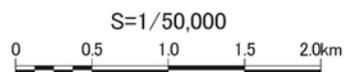


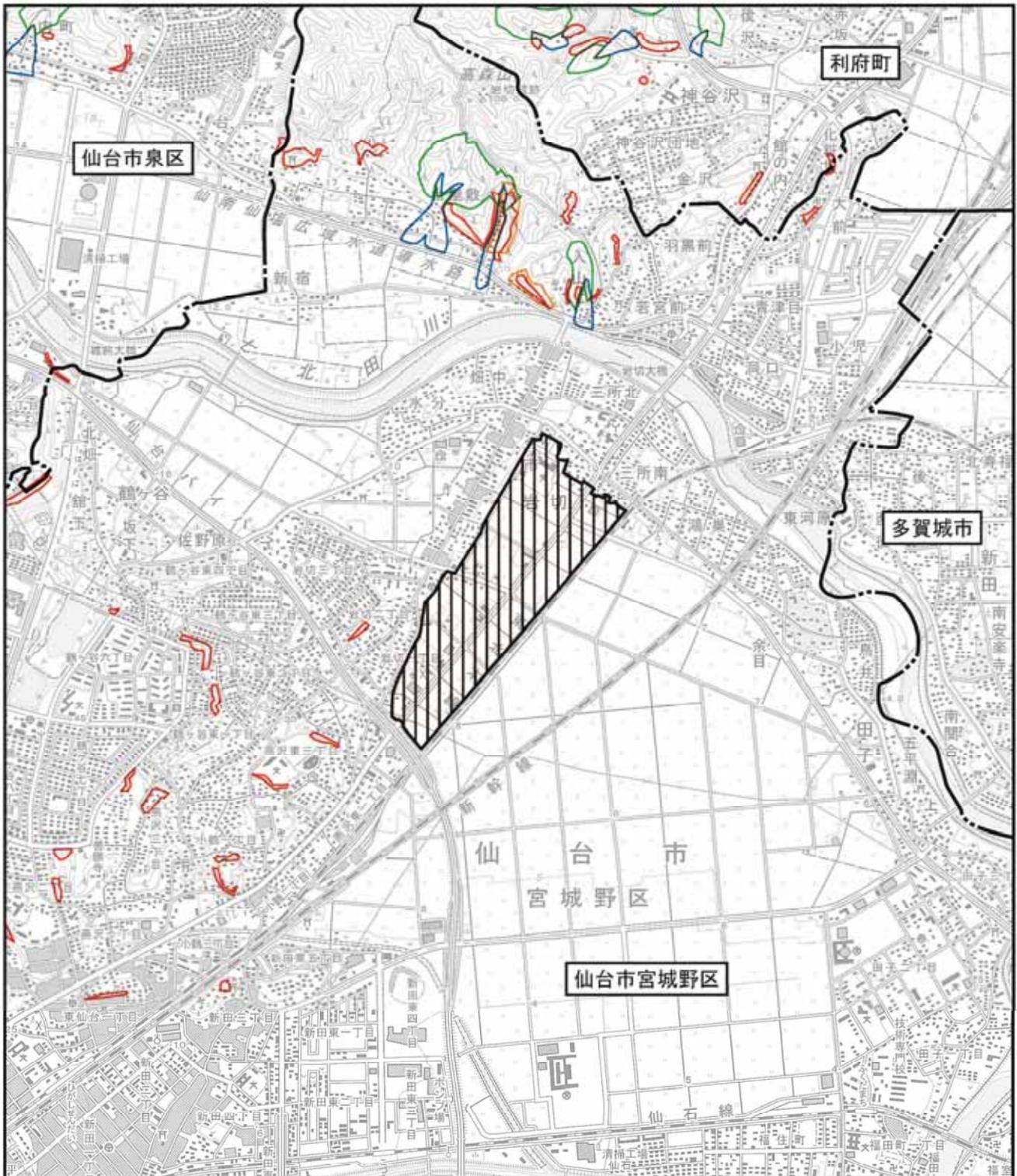
凡 例

-  事業予定区域
-  市町界
-  区 界
-  注目すべき地形・地質

注) 図中の番号は、表3-2に対応する。
 出典：「平成28年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成29年3月、仙台市)

図3-5 注目すべき地形・地質



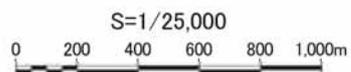


凡 例

- | | | |
|--|--|---|
|  事業予定区域 |  急傾斜地崩壊危険区域 |  急傾斜地崩壊危険箇所 |
|  市町界 |  土石流危険溪流 | |
|  区 界 |  土石流危険区域 | |

出典：「せんだいくらしのマップ」(平成29年7月閲覧、仙台市ホームページ)
「宮城県土砂災害危険箇所図(仙台東北部)」(平成29年7月閲覧、宮城県ホームページ)

図3.1-17 防災関連等指定区域



3.3 植物

(1) 注目すべき植物種の状況

仙台市は、市域が海岸から奥羽山脈まで広がりを持ち、丘陵地帯は、暖温帯と冷温帯の間に位置する中間地帯と呼ばれる領域が広く占めているという特徴がある。そのため、暖地系及び寒地系の両方の植物がみられ、植物相が多様である。

調査範囲における注目すべき植物種の状況は、以下に示す文献①～③の掲載種より整理した。

文献①については、「保全上重要な種」に挙げられている種のうち、事業予定区域が該当する地域区分「東部田園地域」における減少種のみ（表3-3参照）を注目すべき種として抽出した。

文献②及び③については、表3-4に示す選定基準に該当するものを注目すべき種として整理した。ただし、文献②の掲載種のうち、植栽種は除外した。

整理した結果は表3-5(1)～(3)に示すとおりであり、注目すべき植物種は61科154種であった。

①「平成28年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（平成29年3月、仙台市）

②「県民の森緑地環境保全地域学術調査報告書」（平成5年3月宮城県）

③「加瀬沼緑地環境保全地域学術調査報告書」（平成13年3月宮城県）

表3-3 注目すべき種（減少種）の地域区分

番号	地域区分	
1	山地地域	
2	西部丘陵地・田園地域	
3	市街地地域	
4	東部田園地域	
5	海浜地域(後背の樹林帯も含む)	

注) 事業予定区域は、「4 東部田園地域」に該当する。

出典：「平成28年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成29年3月、仙台市)
 「杜の都環境プラン仙台市環境基本計画2011-2020」(平成28年3月仙台市)

表3-4 注目すべき種の選定基準

選定理由		番号・記号	説明	
仙台市における保全上重要な種の区分	学術上重要種	1	仙台市においてもともと稀産あるいは希少である種。あるいは生息地・生育地がごく限られている種。	
		2	仙台市周辺地域が分布の北限、南限等の分布境界となる種。	
		3	仙台市が模式産地（タイプロカリティー）となっている種。	
		4	1, 2, 3には該当しないが、各分類群において、注目に値すると考えられる種（継続的に観察・研究されている個体群が存在する種など）。	
	注目種	減少種	EX	絶滅。過去に仙台市に生息したことが確認されており、飼育・栽培下を含め、仙台市では既に絶滅したと考えられる種。
			EW	野生絶滅。過去に仙台市に生息していたことが確認されており、飼育・栽培下では存続しているが、野生ではすでに絶滅したと考えられる種。
			A	現在ほとんど見ることができない、あるいは近将来ほとんど見ることができなくなるおそれがある種。
			B	減少が著しい、あるいは近い将来著しい減少のおそれがある種。
			C	減少している、あるいは近い将来減少のおそれがある種。
			+	普通に見られる、あるいは当面減少のおそれがない種。
			/	もともと生息・生育しない可能性が非常に大きい。
	環境指標種	○	本市の各環境分類において良好な環境を指標する種。 (ビオトープやミティゲーションにおける計画・評価のための指標)	
レッドデータ等	国RL （「環境省レッドリスト2017」（平成29年、環境省）掲載種）	EX	絶滅	
		EW	野生絶滅	
		CR	絶滅危惧ⅠA類	
		EN	絶滅危惧ⅠB類	
		VU	絶滅危惧Ⅱ類	
		NT	準絶滅危惧	
		DD	情報不足	
		LP	絶滅のおそれのある地域個体群	
	県RDB （「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物-宮城県レッドデータブック2016」（平成28年3月、宮城県）掲載種）	EX	絶滅	
		EW	野生絶滅	
		CR+EN	絶滅危惧Ⅰ類	
		VU	絶滅危惧Ⅱ類	
		NT	準絶滅危惧	
	天記・種保存法 （「文化財保護法」（昭和25年法律第214号）及び「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）」（平成4年法律第75号）掲載種）	要	要注目種	
		特天	『文化財保護法』（昭和25年法律第214号）における特別天然記念物	
		天	『文化財保護法』（昭和25年法律第214号）における天然記念物	
		国内	『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）」（平成4年法律第75号）における国内希少野生動植物	
		国際	『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）」（平成4年法律第75号）における国際希少野生動植物	

出典：「平成28年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成29年3月、仙台市)

表3-5(1) 注目すべき植物種 (1/3)

No.	科名	種名	文献		選定基準						
					仙台市における保全上重要な種			レッドデータ等			
					①	②	③	学術上重要な種	注目種		国RL
減少種	環境指標種										
1	ミズニラ	ミズニラ	A			1	○		NT	NT	
2	トクサ	イヌスギナ	B	○	○		○				
3	イノモトソウ	オオバノイノモトソウ	C			1,2	○				
4	オシダ	リョウメンシダ		○	○			○			
5		ジュウモンジシダ		○	○			○			
6	ヒメシダ	ヒメワラビ	B			2	○				
7	メシダ	イヌガンソク	C	○	○		○				
8		クサソテツ	C	○	○		○				
9	サンショウモ	サンショウモ	EX				○		VU	NT	
10	マツ	モミ			○			○			
11	クルミ	オニグルミ	B	○	○		○				
12	ヤナギ	ネコヤナギ		○				○			
13		キツネヤナギ		○	○			○			
14	カバノキ	ハンノキ	B		○	1,4	○	○			
15		ウダイカンバ		○	○	4					
16		サウシバ		○				○			
17		アカシデ		○	○			○			
18		イヌシデ		○		4		○			
19	ブナ	ブナ			○	4					
20		イヌブナ			○	1,4		○			
21		アカガシ	C	○	○	2	○	○			
22		シラカシ	C		○	2	○	○			
23		ウラジロガシ	C	○	○	2	○	○			
24	ニレ	エノキ	B		○	4	○				
25		ケヤキ	B		○		○	○			
26	タデ	ヒメタデ	B				○		VU	VU	
27		ヤナギヌカボ	C	○		1	○		VU	要	
28		イヌタデ		○				○			
29		サデクサ	C			1	○			NT	
30		ミゾソバ	C	○	○		○	○			
31		ノダイオウ	C	○		1,4	○		VU	要	
32	クスノキ	オオバクロモジ		○				○			
33		シロダモ	+	○	○	2	○	○			
34	キンボウゲ	ニリンソウ	B	○			○	○			
35		イチリンソウ		○						CR+EN	
36		キクザキイチゲ	B	○			○	○			
37		カザグルマ	B	○		1	○		NT	VU	
38	スイレン	オニバス	EX			1	○		VU	EX	
39	マツモ	マツモ	A	○	○	1	○				
40		ヨツバリキンギョモ	A			1,2	○				
41	ツバキ	ヤブツバキ	B		○		○	○			
42	ケシ	ヤマブキソウ		○		1					
43	アブラナ	ナズナ	B	○	○		○	○			
44		ミズタガラシ	B				○			VU	
45		ヨイヌガラシ		○					NT	CR+EN	
46	ユキノシタ	トリアシショウマ	B	○	○		○				
47		タコノアシ	C	○			○		NT		
48	バラ	ザイフリボク		○							
49		ヤマブキ		○	○			○			
50		カスミザクラ		○	○						
51		カジイチゴ	C			1,2	○				
52	マメ	タヌキマメ	EX				○			CR+EN	
53		ツクシハギ	B	○	○		○	○			
54	トウダイグサ	ノウルシ	C				○		NT	要	
55	ユズリハ	ユズリハ	C		○	1,2	○				

注1) 種名は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成29年度生物リスト」(平成29年10月、河川環境データベース 国土交通省)に準拠した。

注2) 「学術上重要な種」「減少種」「国RL」「県RDB」の英数字は、表3-4に対応する。

文献①:「平成28年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成29年3月、仙台市)

文献②:「県民の森緑地環境保全地域学術調査報告書」(平成5年3月、宮城県)

文献③:「加瀬沼緑地環境保全地域学術調査報告書」(平成13年3月、宮城県)

表3-5(2) 注目すべき植物種 (2/3)

No.	科名	種名	文献		選定基準							
					仙台市における 保全上重要な種			レッドデータ等				
					①	②	③	学術上 重要な種	注目種		国RL	県RDB
減少種	環境指標種											
56	カエデ	メグスリノキ		○		1						
57		ヤマモミジ		○	○			○				
58	グミ	マルバグミ			○						VU	
59	スミレ	サクラスミレ		○		1						
60		ナガハシスミレ	B	○		1	○					
61	ヒシ	ヒシ	B	○	○		○	○				
62	ミズキ	アオキ	C	○	○		○	○				
63	セリ	ハナウド	C				○				NT	
64	イチヤクソウ	ウメガサソウ	C				○	○				
65	ツツジ	ヤマツツジ			○			○				
66	ヤブコウジ	ヤブコウジ		○	○			○				
67	モクセイ	イボタノキ			○			○				
68	ミツガシワ	ヒメシロアサザ	A			1	○		VU	VU		
69	ガガイモ	コカモメヅル			○	1					VU	
70	ムラサキ	ルリソウ		○							NT	
71	クマツヅラ	カリガネソウ			○						CR+EN	
72	シソ	ヒメハッカ	B			1	○		NT	CR+EN		
73	ゴマノハグサ	アブノメ		○							VU	
74		オオアブノメ	B			1	○		VU	要		
75		サギゴケ	C				○	○				
76		カワヂシャ	B			1	○		NT	NT		
77	タヌキモ	ミミカキグサ	A				○				CR+EN	
78		フサタヌキモ	EX				○		EN	EX		
79		ムラサキミミカキグサ	A			1	○		NT	NT		
80	オオバコ	オオバコ		○	○			○				
81	オミナエシ	オミナエシ	B	○			○	○				
82	キキョウ	キキョウ		○	○			○	VU	VU		
83	キク	オクモミジハグマ		○	○			○				
84		キッコウハグマ		○	○			○				
85		オケラ		○	○			○				
86		アキノキリンソウ		○	○			○				
87		エゾタンポポ	B	○	○		○	○				
88		オナモミ			○				VU	VU		
89	オモダカ	ヘラオモダカ	B	○			○	○				
90		サジオモダカ	B				○	○				
91		アギナシ	B				○	○	NT	VU		
92		ウリカワ	B				○	○				
93		オモダカ	B				○	○				
94		ホソバオモダカ	B				○	○				
95	トチカガミ	クロモ	A		○		○	○				
96		ミズオオバコ	B			1	○		VU	NT		
97		コウガイモ	A				○				CR+EN	
98	ヒルムシロ	エビモ	B	○	○		○	○				
99		ツツイトモ			○				VU	CR+EN		
100		コバノヒルムシロ	B				○	○	VU	VU		
101		ヒルムシロ	B				○	○				
102		フトヒルムシロ	B				○	○				
103		オオミズヒキモ	B				○	○				
104		センニンモ	B				○	○			VU	
105		オヒルムシロ	B	○			○	○				
106		ホソバミズヒキモ	B				○	○			VU	
107		イトモ	B			1	○		NT	要		
108	イバラモ	イトリゲモ	A			1	○		NT	NT		
109		トリゲモ	A			1	○		VU	CR+EN		
110		オオトリゲモ	A			1	○				CR+EN	

注1) 種名は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成29年度生物リスト」(平成29年10月、河川環境データベース 国土交通省)に準拠した。

注2) 「学術上重要な種」「減少種」「国RL」「県RDB」の英数字は、表3-4に対応する。

文献①:「平成28年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成29年3月、仙台市)

文献②:「県民の森緑地環境保全地域学術調査報告書」(平成5年3月、宮城県)

文献③:「加瀬沼緑地環境保全地域学術調査報告書」(平成13年3月、宮城県)

表3-5(3) 注目すべき植物種 (3/3)

No.	科名	種名	文献		選定基準							
					仙台市における保全上重要な種			レッドデータ等				
					①	②	③	学術上重要な種	注目種 減少種 環境指標種		国RL	県RDB
111	ユリ	スズラン		○							VU	
112		カタクリ	B	○			○					
113		ショウジョウバカマ		○				○				
114		ニッコウキスゲ	B	○	○		○					
115		コオニユリ	B				○					
116		ヒメヤブラン		○	○			○				
117		ユキザサ		○				○				
118	キンバイザサ	コキンバイザサ	EX			1,2	○				EX	
119	ミズアオイ	ミズアオイ	C				○	○	NT			
120		コナギ	C				○	○				
121	アヤメ	ヒメシヤガ		○					NT	NT		
122		カキツバタ	A			1	○		NT	VU		
123	イネ	メヒシバ		○	○			○				
124		カゼクサ	C		○		○	○				
125		オオウシノケグサ	B	○	○	4	○	○				
126		ウキガヤ	C				○			NT		
127		エゾノサヤヌカグサ	C				○					
128		オギ	C	○			○	○				
129		ヨシ	C	○	○		○	○				
130		ツルヨシ	C				○	○				
131		スズタケ		○				○				
132		ネズミノオ	C		○		○	○				
133		ハイドジョウツナギ		○						VU		
134		マコモ	B		○		○	○				
135		シバ	B		○		○	○				
136	サトイモ	ヒメザゼンソウ	C				○					
137	ミクリ	ミクリ	B	○		1	○	○	NT	NT		
138		ヤマトミクリ	A			1	○		NT	CR+EN		
139		ナガエミクリ	A			1	○		NT	NT		
140	ガマ	ヒメガマ	C	○	○		○					
141		ガマ	C	○	○		○	○				
142	カヤツリグサ	ヤマクボスゲ		○					NT	VU		
143		センダイスゲ		○	○	4						
144		ニイガタガヤツリ		○					CR	要		
145		フトイ	B				○					
146		カンガレイ	B	○			○					
147		サンカクイ	B	○	○		○					
148	ラン	キンラン		○					VU	VU		
149		シュンラン	C	○	○		○	○				
150		セッコク	EX			1	○			CR+EN		
151		ミズトンボ	B			1	○		VU	CR+EN		
152		ジガバチソウ		○	○					NT		
153		ツレサギソウ	C	○			○			NT		
154		ネジバナ	B	○			○	○				
計	61科	154種	103種	79種	64種	46種	103種	74種	35種	55種	0種	

注1) 種名は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成29年度生物リスト」(平成29年10月、河川環境データベース 国土交通省)に準拠した。

注2) 「学術上重要な種」「減少種」「国RL」「県RDB」の英数字は、表3-4に対応する。

文献①:「平成28年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成29年3月、仙台市)

文献②:「県民の森緑地環境保全地域学術調査報告書」(平成5年3月、宮城県)

文献③:「加瀬沼緑地環境保全地域学術調査報告書」(平成13年3月、宮城県)

(2) 植生の状況

現存植生図は図3-7に示すとおりであり、事業予定区域の現存植生は、大部分が「水田雑草群落」となっており、一部に「畑雑草群落」「市街地」がみられる。

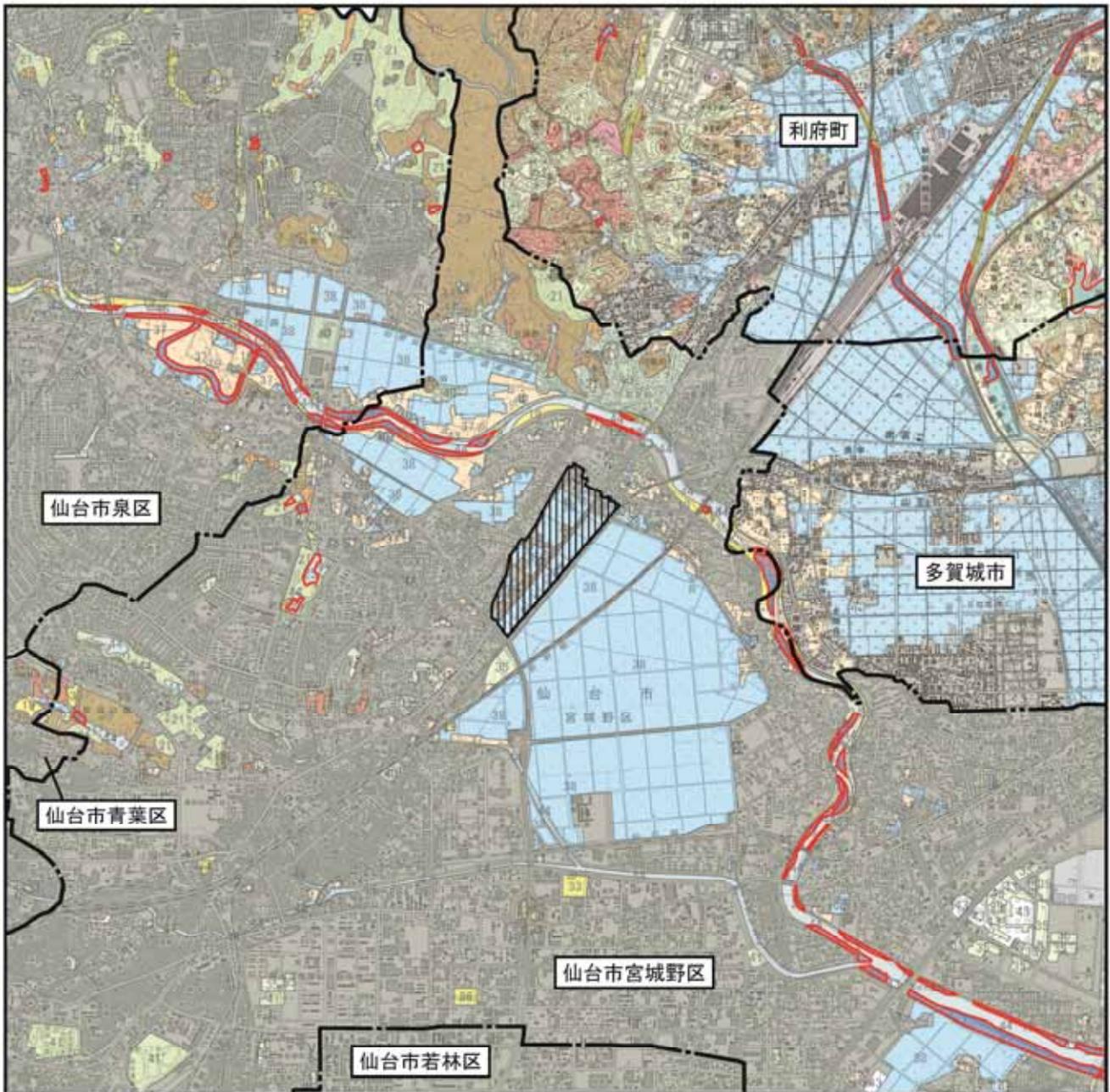
仙台市では、「平成28年度 自然環境に関する基礎調査業務報告書」（平成29年3月、仙台市）において、環境省の植生自然度9、10（自然植生）に該当する植生を「自然性の高い植生」として位置づけている。自然性の高い植生の分布は図3-7に示すとおりであり、七北田川等の川沿いのヨシクラス（植生自然度10）及びヤナギ低木群落（植生自然度9）、鶴ヶ谷中央公園内のヒルムシロクラス（植生自然度10）が該当している。また、多賀城市と利府町にまたがる加瀬沼にヒルムシロクラス（植生自然度10）が分布している。なお、事業予定区域の植生は「自然性の高い植生」に該当していない。

植生自然度区分は表3-6に示すとおりである。

表3-6 植生自然度区分

植生自然度	区分基準
10	高山ハイデ、風衝草原、自然草原等、自然植生のうち単層の植物社会を形成する地区
9	エゾマツトドマツ群集、ブナ群落等、自然植生のうち低木林、高木林の植物社会を形成する地区
8	ブナ・ミズナラ群落、シイ・カシ二次林等、代償植生であっても特に自然植生に近い地区
7	クリーミズナラ群集、コナラ群落等、繰り返し伐採されている一般に二次林と呼ばれている代償植生地区
6	常緑針葉樹、落葉針葉樹、常緑広葉樹等の植林地、アカメガシワ等の低木林
5	ササ群落、ススキ群落等の背丈の高い草原、伝統的な管理を受けて持続している構成種の多い草原
4	シバ群落等の背丈の低い草原、伐採直後の草原、路傍・空地雑草群落、放棄畑雑草群落
3	竹林、外来種の植林・二次林・低木林、果樹園、茶畑、残存・植栽樹群をもった公園、墓地等
2	外来種の草原、畑、水田等の耕作地、緑の多い住宅地
1	市街地、造成地等の植生のほとんど存在しない地区

出典：「1/2.5万植生図を基にした植生自然度について」（平成28年3月、環境省生物多様性センター）



凡 例

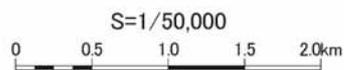
-  事業予定区域
-  市町界
-  区 界
-  植生自然度9,10

※植生の凡例は、次のページに示す。

出典：

仙台市部分：「平成27年度仙台市現存植生図(平成27年度 仙台市自然環境に関する基礎調査)」(平成28年3月、仙台市)
 多賀城市、利府町部分：「第6-7回自然環境保全基礎調査 1/25,000植生図(仙台東北部)」
 (環境省生物多様性センター 植生図画像ダウンロード)(平成29年6月閲覧)

図3-7 現存植生図



凡 例

【仙台市部分】

17	アカマツ群落(V)
22	アズマネザサ群落
21	クリ-コナラ群集
33	ゴルフ場・芝地
29	スギ・ヒノキ・サワラ植林
19	ススキ群団(V)
25	ヒルムシロクラス
12	ヤナギ低木群落(IV)
23	ヨシクラス
42	工場地帯
39	市街地
36	果樹園
41	残存・植栽樹群をもった公園、墓地等
38	水田雑草群落
37	畑雑草群落
40	緑の多い住宅地
45	自然裸地
18	落葉広葉低木群落
35	路傍・空地雑草群落
43	造成地
44	開放水域

【多賀城市、利府町部分】

13	アカマツ群落
21	クリ-コナラ群集
h	ゴルフ場・芝地
30	スギ・ヒノキ・サワラ植林
14	ススキ群団
15	伐採跡地群落
27	ヒルムシロクラス
23	クズ群落
24	ヨシクラス
36	竹林
k	市街地
e	果樹園
b	水田雑草群落
a	畑雑草群落
d	放棄水田雑草群落
i	緑の多い住宅地
f	路傍・空地雑草群落
○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	造成地
w	開放水域

出典：

仙台市部分：「平成27年度仙台市現存植生図(平成27年度 仙台市自然環境に関する基礎調査)」(平成28年3月、仙台市)

多賀城市、利府町部分：「第6-7回自然環境保全基礎調査 1/25,000植生図(仙台東北部)」

(環境省生物多様性センター 植生図画像ダウンロード)(平成29年6月閲覧)

図3-7 現存植生図【凡例】

(3)保全上重要な植物の生育地の状況

「平成28年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成29年3月、仙台市)による、仙台市における植物生育地として重要な地域の選定基準は表3-7に、調査範囲における重要な地域及び宮城県の自然環境保全条例により緑地環境保全地域に指定されている加瀬沼については表3-8及び図3-8に示すとおりである。

また、「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物-宮城県レッドデータブック2016」(平成28年3月、宮城県)による希少な植物群落のカテゴリー区分は表3-9に示すとおりであり、調査範囲において該当する植物群落は表3-10(1)~(2)及び図3-8に示すとおりである。

事業予定区域は、植物生育地として重要な地域に含まれていない。

表3-7 植物生育地及び動物生息地として重要な地域の選定基準(仙台市)

番号	判断理由
1	保全上重要な動植物種が高密度で分布する地域(動物の繁殖場、集団越冬地となっている地域など)
2	多様な生物相が保存されている地域
3	自然性の高い植生、その他学術上重要な植生が保存されている地域
4	湿地、湧水、岸壁地、地滑り等の動植物の生息・生育地として特異な環境を有する地域
5	自然とのふれあいの場としてふさわしい地域
6	環境教育の場としてふさわしい地域
7	郷土の特色が保存されている地域(里地里山・居久根等)
8	緑の回廊としてあるいは動物の移動のネットワークとして重要な地域(山地から市街地への連続した緑地、市街地や田園地域に点在する緑地等)
9	海岸や水辺、植生帯境界等のエコトーンとして重要な地域

出典:「平成28年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成29年3月、仙台市)

表3-8 植物生育地として重要な地域

No.	市町名	件名	備考	判断理由※
1	仙台市	洞雲寺のコナラ林	コナラの大木を主体とする自然度の高い社寺林。下層にはモミの若木が生長し、植生遷移を考察する上で貴重。また住宅団地域に残る自然緑地としても重要。	5,6,7
2		七北田川下流域の河畔植生	ヨシ群落自然植生度10のヨシクラスを主体とする河畔植生で、防災・減災対策と整合性のある保全・保護対策が必要。市民の憩いの場として極めて貴重。環境省の東北地方太平洋沿岸地域重要自然マップの重点エリアに含まれる。	8,9
3		与兵衛沼周辺の里地・里山植生	市街地の内部に残された、まとまりのある緑地、里地・里山植生。野生動植物のハビタット、環境学習のフィールド、市街地にも近く、市街地の内部のとび石型生態系回廊(生態系コリドール)として重要。	7,8
4		榴ヶ岡・新寺・木下地区の緑地	市街地内部に残された、段丘に沿った緑地と社寺林景観からなるまとまりのある緑地として重要。	7,8
5		県民の森	県民の森緑地環境保全地域。仙台市北東部で市街地に隣接する緑地、公園。野生動植物のハビタット、環境学習のフィールドとして重要。	5,6,7
6		燕沢三丁目の緑地	燕沢三丁目の特別緑地保全地区。市街地に残された景観上優れた緑地として重要。	7
7	多賀城市、利府町	加瀬沼	加瀬沼緑地環境保全地域	—

※ 表3-7に対応する。

注) No.は、図3-8に対応する。

出典:「平成28年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成29年3月、仙台市)
「加瀬沼緑地環境保全地域学術調査報告書」(平成13年3月宮城県)

表3-9 希少な植物群落のカテゴリー区分

カテゴリー		絶滅危機の度合い
D	壊滅	群落は壊滅した。
4	壊滅状態	群落は全体的に壊滅状態にあり、緊急に対策を講じなければ壊滅する。
3	壊滅危惧	対策を講じなければ、群落は徐々に悪化して壊滅する。
2	破壊危惧	群落は当面保護されているが、将来破壊されるおそれがある。
1	要注意	現在、保護・管理状態がよく、当面破壊されるおそれが少ない。 しかし、監視は必要である。

出典：「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物-宮城県レッドデータブック2016」（平成28年3月、宮城県）

表3-10(1) 希少な植物群落（単一群落）

No.	植生タイプ	群落タイプ	群落名	カテゴリー※
A	二次林(中間温帯)	コナラ群落	洞雲寺のコナラ群落	3

※ 表3-9に対応する。

注) No.は、図3-8に対応する。

出典：「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物-宮城県レッドデータブック2016」
(平成28年3月、宮城県)

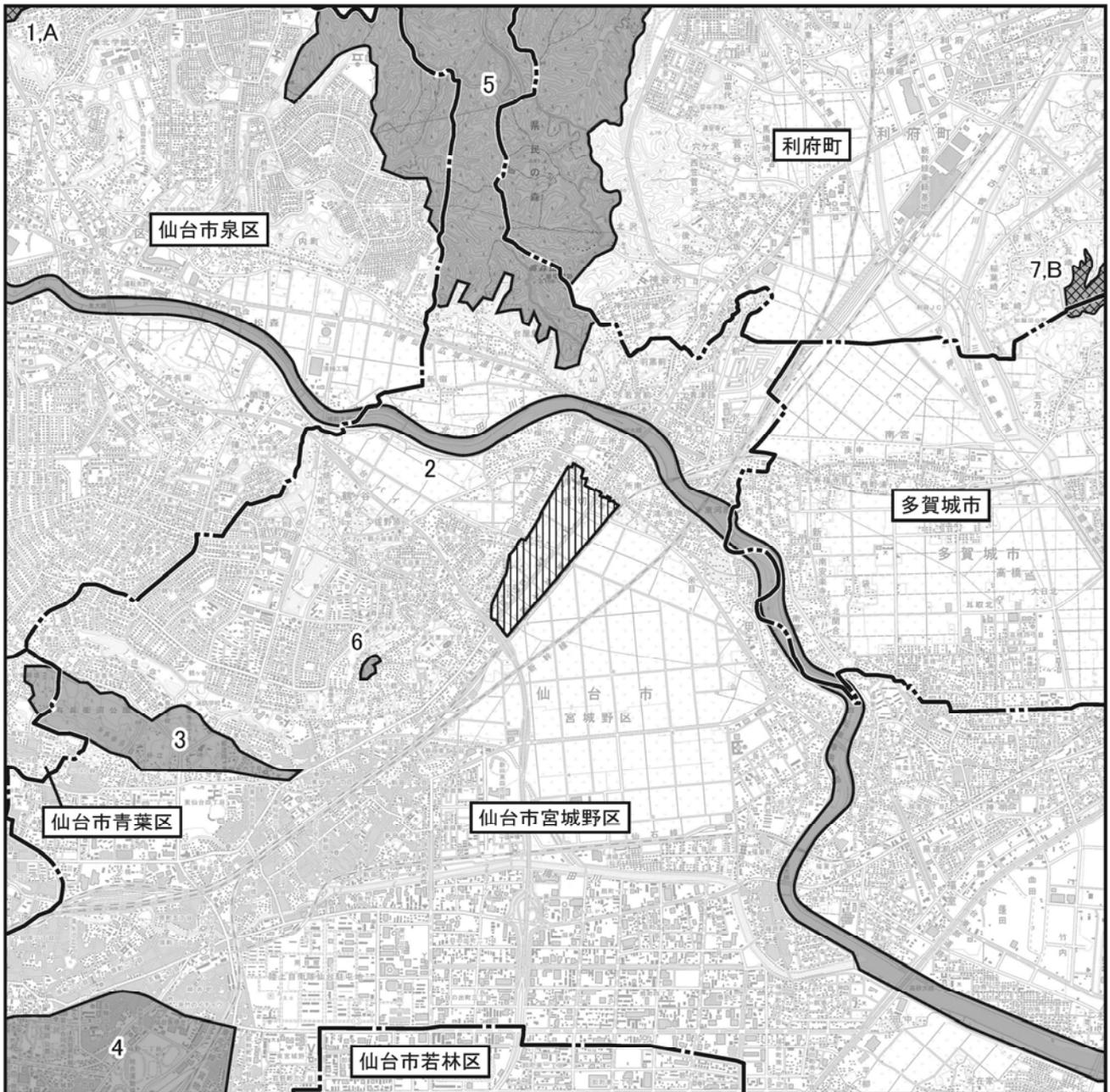
表3-10(2) 希少な植物群落（群落複合(植生)）

No.	植生タイプ	群落名	カテゴリー※
B	池沼植生	加瀬沼の池沼植物群落	3

※ 表3-9に対応する。

注) No.は、図3-8に対応する。

出典：「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物-宮城県レッドデータブック2016」
(平成28年3月、宮城県)



凡 例

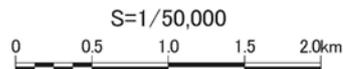
-  事業予定区域
-  市町界
-  区 界
-  植物生育地として重要な地域 (1~7)
-  宮城県レッドデータブックで選定された植物群落 (A~B)

注) 図中の番号は、表3-8,10(1)~(2)に対応する。

出典：「平成28年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成29年3月、仙台市)

「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物-宮城県レッドデータブック2016」(平成28年3月、宮城県)

図3-8
植物生育地として重要な地域及び
宮城県レッドデータブックで選定された植物群落



3.4 動物

(1) 注目すべき動物種の状況

調査範囲は市街地や田園地域であり、人の生活空間の拡大や農地の区画整備、各種開発事業等により動物の生息環境が減少しているが、市街地に残された公園、田園地域に見られる居久根などの緑地や河川沿いなどでキツネ、イタチ、カワセミなどが生息している。

調査範囲における注目すべき動物種の状況は、以下に示す文献①～③の掲載種より整理した。

文献①については、「保全上重要な種」に挙げられている種のうち、事業予定区域が該当する地域区分「東部田園地域」における減少種のみ（表3-3参照）を注目すべき種として抽出した。

文献②及び③については、表3-4に示した選定基準に該当するものを注目すべき種として整理した。

整理した結果は表3-11～16に示すとおりであり、調査範囲における注目すべき動物種は、哺乳類7科12種、鳥類29科69種、爬虫類3科6種、両生類6科13種、魚類12科29種、昆虫類25科37種であった。

- ① 「平成28年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（平成29年3月、仙台市）
- ② 「県民の森緑地環境保全地域学術調査報告書」（平成5年3月宮城県）
- ③ 「加瀬沼緑地環境保全地域学術調査報告書」（平成13年3月宮城県）

表3-11 注目すべき動物種（哺乳類）

No.	科名	種名	文献		選定基準						
					仙台市における保全上重要な種			レッドデータ等			
					①	②	③	学術上重要な種	減少種	環境指標種	国RL
1	トガリネズミ	ホンシュウ(シントウ)トガリネズミ	/				○	○			
2		ホンシュウジネズミ	C				○	○			
3		カワネズミ	/			1,4	○	○		DD	
4	モグラ	ヒメヒミズ	/			1	○	○			
5		ミズラモグラ	/			1,4	○		NT	NT	
6	ヒナコウモリ	ヤマコウモリ	C			1,4	○	○	VU	VU	
7	ヤマネ	ヤマネ	/			1,4	○			NT	天記
8	ネズミ	ハタネズミ	C	○			○	○			
9		(ホンド)ヒメネズミ	/	○			○	○			
10	イヌ	(ホンド)タヌキ	+	○			○	○			
11	イタチ	(ホンド)イタチ	C	○			○	○			
12		(ホンド)オコジョ	/			1,4	○		NT	NT	
計	7科	12種	12種	4種	0種	6種	12種	9種	3種	5種	1種

注1) 種名は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成29年度生物リスト」（平成29年10月、河川環境データベース 国土交通省）に準拠した。

注2) 「学術上重要な種」「減少種」「国RL」「県RDB」の英数字は、表3-4に対応する。

文献①：「平成28年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（平成29年3月、仙台市）

文献②：「県民の森緑地環境保全地域学術調査報告書」（平成5年3月、宮城県）

文献③：「加瀬沼緑地環境保全地域学術調査報告書」（平成13年3月、宮城県）

表3-12(1) 注目すべき動物種（鳥類）(1/2)

No.	科名	種名	文献		選定基準						
					仙台市における 保全上重要な種			レッドデータ等			
			①	②	③	学術上 重要な種	減少種	環境 指標種	国 R L	県 R D B	天記・ 種 保 存 法
1	キジ	ウズラ	A			1,4	○		VU	CR+EN	
2		ヤマドリ		○		1,4		○			
3	カモ	ヒシクイ	C				○		VU	NT	天記
4		マガン	B		○	1,4	○		NT		天記
5	カイツブリ	カイツブリ	C	○	○		○	○			
6	サギ	サンカノゴイ	B			1	○		EN	NT	
7		ヨシゴイ	C	○		1,4	○	○	NT	NT	
8		オオヨシゴイ	B			1,4	○		CR	CR+EN	
9		アマサギ	+			4	○	○			
10		チュウサギ	C			1,2,4	○		NT		
11		コサギ	+	○	○		○	○			
12	クイナ	クイナ	B			1,4	○			要	
13		ヒクイナ	B			1,4	○		NT	CR+EN	
14		バン	C		○	1,4	○	○			
15		オオバン	B		○		○				
16	カッコウ	ホトギス	C	○	○	1,4	○	○			
17		カッコウ	C	○		1,4	○	○			
18	チドリ	イカルチドリ	B		○	1,4	○	○			
19	シギ	オオジシギ	B			1,4	○		NT	NT	
20		アカアシシギ	B			1	○		VU		
21	カモメ	コアジサシ	B			1,2,4	○		VU	VU	国際
22	ウミスズメ	ウミスズメ	/			1,4	○		CR		
23	ミサゴ	ミサゴ	C			1,4	○	○	NT		
24	タカ	オジロワシ	B			1,2,4	○		VU	VU	天記・ 国内・ 国際
25		オオワシ	B			1,2,4	○		VU	VU	天記・ 国内
26		チュウヒ	C			1,4	○	○	EN	NT	
27		ツミ	C	○		1,4	○			DD	
28		ハイタカ	C	○	○	1,4	○		NT	NT	
29		オオタカ	B	○	○	1,4	○	○	NT	NT	国内
30		サシバ	C	○		1,4	○		VU	VU	
31		ノスリ	C	○	○		○	○			
32	フクロウ	オオコノハズク	B			1	○			要	
33		フクロウ	B	○		1	○	○			
34		アオバズク	B			1	○	○		VU	
35		トラフズク	B			1	○	○			
36		コミズク	B			1	○	○		要	
37	カワセミ	カワセミ	C	○	○	1,4	○	○			
38	キツツキ	アカゲラ	C	○	○		○				
39		アオゲラ	C	○	○		○	○			
40	ハヤブサ	チョウゲンボウ	C			1,4	○				
41		チゴハヤブサ	B				○			要	
42		ハヤブサ	B	○		1,4	○		VU	NT	国内・ 国際
43	サンショウクイ	サンショウクイ	C	○	○		○		VU	VU	
44	カササギヒタキ	サンコウチョウ		○	○	1		○			
45		チゴモズ	B			1,4	○		CR	CR+EN	
46	モズ	モズ	C	○	○	1	○	○			
47		アカモズ	B			1,4	○		EN	CR+EN	
48	ヒバリ	ヒバリ	C	○	○		○	○			
49	ツバメ	ツバメ	C	○	○		○	○			
50	ウグイス	ウグイス	C	○	○	1,4	○	○			
51	ムシクイ	センダイムシクイ		○	○			○			
52	ヨシキリ	オオヨシキリ	C	○	○	1,4	○	○			
53		コヨシキリ	C			1,4	○	○			

注1) 種名は「日本鳥類目録 改訂第7版」(平成24年、日本鳥類学会)に準拠した。

注2) 「学術上重要な種」「減少種」「国RL」「県RDB」の英数字は、表3-4に対応する。

文献①:「平成28年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成29年3月、仙台市)

文献②:「県民の森緑地環境保全地域学術調査報告書」(平成5年3月、宮城県)

文献③:「加瀬沼緑地環境保全地域学術調査報告書」(平成13年3月、宮城県)

表3-12(2) 注目すべき動物種（鳥類）(2/2)

No.	科名	種名	文献		選定基準						
					仙台市における保全上重要な種			レッドデータ等			
			①	②	③	学術上重要な種	減少種	環境指標種	国RL	県RDB	天記・種保存法
54	セッカ	セッカ	C			1,4	○	○			
55	ゴジュウカラ	ゴジュウカラ		○				○			
56	ヒタキ	トラツグミ	C	○	○		○	○			
57		クロツグミ	C	○		1,4	○	○			
58		シロハラ		○	○			○			
59		ヨルリ	C			1,4	○	○			
60		ルリビタキ	C	○	○		○				
61		コサメビタキ		○	○			○			
62		キビタキ		○	○			○			
63	オオルリ	C	○	○	1,4	○	○				
64	セキレイ	キセキレイ	C	○	○	1,4	○	○			
65		セグロセキレイ	C	○	○	4	○				
66	ホオジロ	ホオジロ	C	○	○		○	○			
67		ホオアカ	C	○	○		○	○			
68		アオジ	C	○	○		○	○			
69		コジュリン	B			1,4	○		VU	VU	
計	29科	69種	62種	36種	32種	48種	62種	39種	24種	25種	7種

注1) 種名は「日本鳥類目録 改訂第7版」(平成24年、日本鳥類学会)に準拠した。

注2) 「学術上重要な種」「減少種」「国RL」「県RDB」の英数字は、表3-4に対応する。

文献①：「平成28年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成29年3月、仙台市)

文献②：「県民の森緑地環境保全地域学術調査報告書」(平成5年3月、宮城県)

文献③：「加瀬沼緑地環境保全地域学術調査報告書」(平成13年3月、宮城県)

表3-13 注目すべき動物種（爬虫類）

No.	科名	種名	文献		選定基準						
					仙台市における保全上重要な種			レッドデータ等			
			①	②	③	学術上重要な種	減少種	環境指標種	国RL	県RDB	天記・種保存法
1	カナヘビ	ニホンカナヘビ	C	○	○		○	○			
2	ナミヘビ	アオダイショウ	C	○	○		○	○			
3		ジムグリ	C				○	○			
4		ヒバカリ	C				○	○			
5		ヤマカガシ	C	○			○	○			
6	クサリヘビ	ニホンマムシ	C		○		○				
計	3科	6種	6種	3種	3種	0種	6種	5種	0種	0種	0種

注1) 種名は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成29年度生物リスト」(平成29年10月、河川環境データベース 国土交通省)に準拠した。

注2) 「学術上重要な種」「減少種」「国RL」「県RDB」の英数字は、表3-4に対応する。

文献①：「平成28年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成29年3月、仙台市)

文献②：「県民の森緑地環境保全地域学術調査報告書」(平成5年3月、宮城県)

文献③：「加瀬沼緑地環境保全地域学術調査報告書」(平成13年3月、宮城県)

表3-14 注目すべき動物種（両生類）

No.	科名	種名	文献			選定基準					
			①	②	③	仙台市における 保全上重要な種			レッドデータ等		
						学術上 重要な種	減少種	環境 指標種	国 R L	県 R D B	天 記 ・ 種 保 存 法
1	サンショウウオ	トウホクサンショウウオ	/	○	○	4	○	○	NT	NT	
2		クロサンショウウオ	/	○	○		○	○	NT	LP	
3		キタオウシュウサンショウウオ	/			2	○	○		NT	
4	イモリ	アカハライモリ	C	○			○	○	NT	LP	
5	ヒキガエル	アズマヒキガエル	C	○	○		○				
6	アマガエル	ニホンアマガエル	+	○	○		○	○			
7	アカガエル	タゴガエル	/				○				
8		ニホンアカガエル	C	○	○		○				
9		トウキョウダルマガエル	C	○			○	○	NT	NT	
10		ツチガエル			○			○	○		NT
11	アオガエル	シュレーゲルアオガエル	C		○		○	○			
12		モリアオガエル	/				○	○			
13		カジカガエル	/				○	○			
計	6科	13種	12種	8種	6種	2種	12種	10種	4種	6種	0種

注1) 種名は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成29年度生物リスト」（平成29年10月、河川環境データベース 国土交通省）に準拠した。

注2) 「学術上重要な種」「減少種」「国RL」「県RDB」の英数字は、表3-4に対応する。

文献①：「平成28年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（平成29年3月、仙台市）

文献②：「県民の森緑地環境保全地域学術調査報告書」（平成5年3月、宮城県）

文献③：「加瀬沼緑地環境保全地域学術調査報告書」（平成13年3月、宮城県）

表3-15 注目すべき動物種（魚類）

No.	科名	種名	文献			選定基準					
			①	②	③	仙台市における 保全上重要な種			レッドデータ等		
						学術上 重要な種	減少種	環境 指標種	国 R L	県 R D B	天 記 ・ 種 保 存 法
1	ヤツメウナギ	スナヤツメ	C*	○		1	○		VU	NT	
2		カワヤツメ	/			1	○		VU	DD	
3	ウナギ	ニホンウナギ	C			1	○	○	EN	NT	
4	コイ	キンブナ	C	○			○		VU	NT (河川の キンブナ)	
5		テツギョ	/			1	○			CR+EN	
6		タナゴ	EX				○		EN	CR+EN	
7		アカヒレタビラ	EX				○		EN	CR+EN	
8		ゼニタナゴ	EW				○		CR	CR+EN	
9		エゾウグイ	/			1,4	○		LP	VU	
10		ウグイ	+		○		○	○			
11		シナイモツゴ	/			1,4	○		CR	CR+EN	
12	ドジョウ	ドジョウ		○	○				DD		
13		ホトケドジョウ	C	○		1	○	○	EN	NT	
14	ギギ	ギバチ	C			1	○		VU	NT	
15	アユ	アユ	+				○	○			
16	サケ	ニッコウイワナ	/				○		DD		
17		サクラマス	C			1	○	○	NT	NT (降海型)	
18		サクラマス(ヤマメ)	+				○	○	NT		
19	メダカ	ミナミメダカ	C		○	1	○	○	VU	NT	
20	サヨリ	クルマサヨリ	/			1	○		NT	DD	
21	トゲウオ	ニホンイトヨ	A			1,4	○		LP	DD	
22	カジカ	カジカ	/				○	○	NT		
23	ハゼ	シロウオ	/				○		VU	VU	
24		ヒモハゼ	/			1	○	○	NT	NT	
25		スミウキゴリ	+			1	○		LP		
26		ヘビハゼ	/			1	○		DD	DD	
27		エドハゼ	/			1,2	○		VU	VU	
28		マサゴハゼ	/			1,2	○		VU	CR+EN	
29		アベハゼ	C			2	○			NT	
計	12科	29種	28種	4種	3種	18種	28種	9種	25種	22種	0種

※ 「スナヤツメ類」として掲載されている。

注1) 種名は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成27年度生物リスト」(平成27年、河川環境データベース 国土交通省)に準拠した。

注2) 「学術上重要な種」「減少種」「国RL」「県RDB」の英数字は、表3-4に対応する。

文献①：「平成28年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成29年3月、仙台市)

文献②：「県民の森緑地環境保全地域学術調査報告書」(平成5年3月、宮城県)

文献③：「加瀬沼緑地環境保全地域学術調査報告書」(平成13年3月、宮城県)

表3-16 注目すべき動物種（昆虫類）

No.	科名	種名	文献		選定基準						
					仙台市における 保全上重要な種			レッドデータ等			
					①	②	③	学 術 上 重 要 種	減 少 種	環 境 指 標 種	国 R L
1	イトトンボ	ヒズマイトトンボ	EX			1,2	○		EN	CR+EN	
2	ムカシトンボ	ムカシトンボ	/			1,4	○	○			
3	ヤンマ	マダラヤンマ	C				○		NT	NT	
4		マルタンヤンマ	C				○			NT	
5		カトリヤンマ	B			1	○			CR+EN	
6	サナエトンボ	ウチワヤンマ	C			1	○				
7	トンボ	ナツアカネ	C		○		○	○			
8		マユタテアカネ	C		○		○	○			
9		アキアカネ	C		○		○	○			
10		ノシメトンボ	C	○	○		○	○			
11		マイコアカネ	C		○		○	○			
12	マツムシ	スズムシ	B			1	○				
13	バッタ	カワラバッタ	B			1	○	○		NT	
14	セミ	エゾゼミ			○			○			
15	コオイムシ	コオイムシ	A			1	○		NT	NT	
16		タガメ	A			1	○	○	VU	CR+EN	
17	タテハチョウ	ウラギンシジロチョウ			○				VU		
18		オオウラギンシジロチョウ	EX				○		CR	EX	
19		オオムラサキ	B		○	1	○	○	NT		
20	アゲハチョウ	アオスジアゲハ	+		○	4	○	○			
21	シロチョウ	ヒメシロチョウ北海道 ・本州亜種	EX				○		EN	CR+EN (ヒメシロチョウ)	
22	ジャノメチョウ	ジャノメチョウ	C	○			○	○			
23	ヤママユガ	オナガミズアオ			○				NT		
24	オサムシ	ヤマトツクリゴミムシ			○	1					
25		シラハタキバナガゴミムシ			○					DD	
26	ゲンゴロウ	ゲンゴロウ	B			1	○		VU	NT	
27		ケシゲンゴロウ			○				NT		
28	ガムシ	コガムシ			○				DD		
29	クワガタムシ	ミヤマクワガタ			○			○			
30		ノギリクワガタ	C	○			○	○			
31	タマムシ	タマムシ(ヤマトタマムシ)	A			1,2	○			NT	
32	ホタル	ゲンジボタル	C			1	○	○		NT	
33	カミキリムシ	ヨツボシカミキリ			○				EN	CR+EN	
34	スズメバチ	モンスズメバチ			○				DD		
35	ミツバチ	クロマルハナバチ			○				NT		
36	コハナバチ	アオスジハナバチ			○	1,2				CR+EN	
37	ハキリバチ	マイマイツツハナバチ			○	1			DD	VU	
計	25科	37種	24種	13種	10種	16種	24種	15種	16種	16種	0種

注1) 種名は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成27年度生物リスト」(平成27年、河川環境データベース 国土交通省)に準拠した。

注2) 「学術上重要な種」「減少種」「国RL」「県RDB」の英数字は、表3-4に対応する。

文献①:「平成28年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成29年3月、仙台市)

文献②:「県民の森緑地環境保全地域学術調査報告書」(平成5年3月、宮城県)

文献③:「加瀬沼緑地環境保全地域学術調査報告書」(平成13年3月、宮城県)

(2)保全上重要な動物の生息地の状況

動物生息地として重要な地域は表3-17及び図3-9に示すとおりであり、そのうち仙台市における選定基準は表3-7に示したとおりである。

事業予定区域の一部が、「福田町の田園」に含まれている。

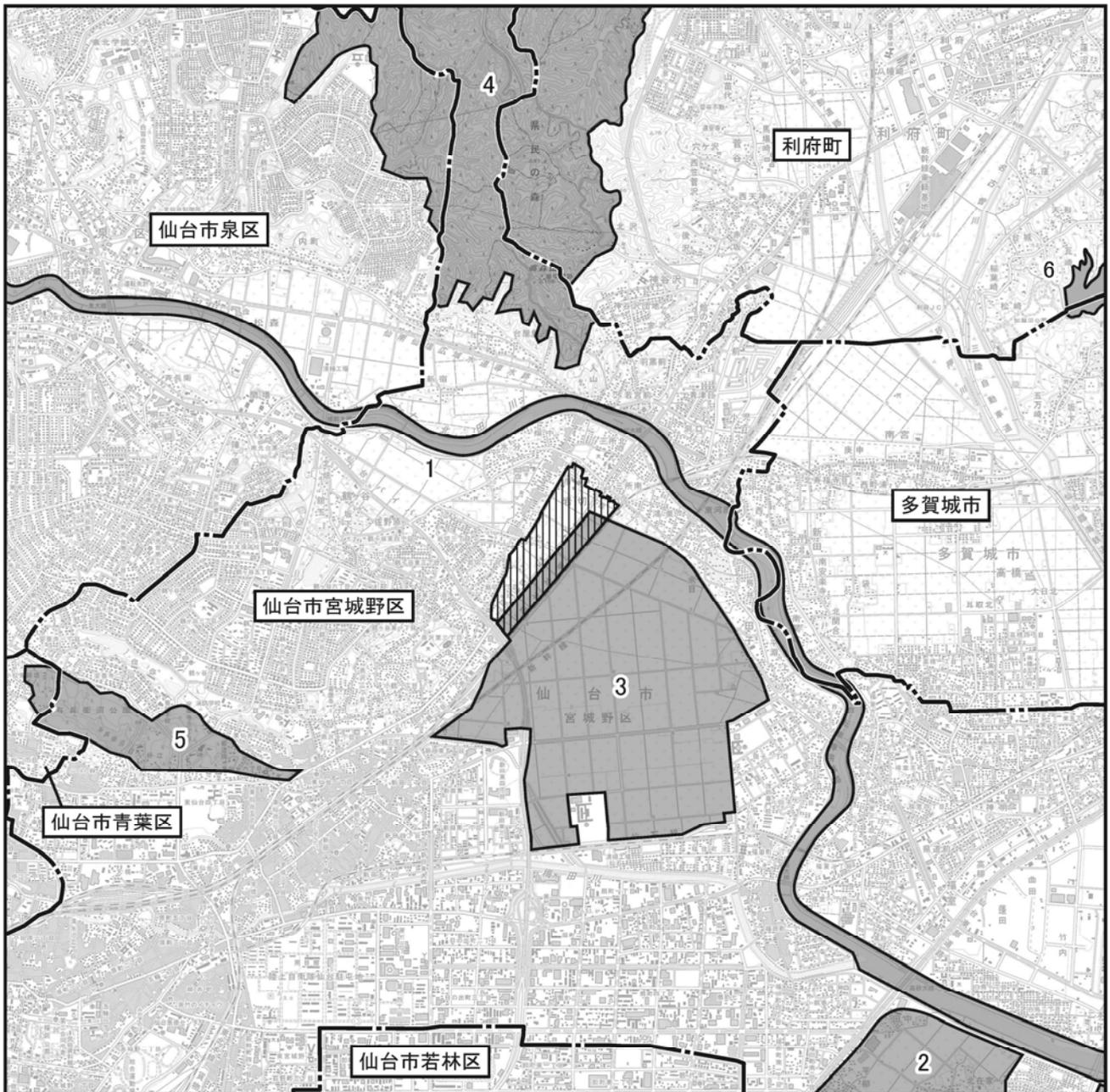
表3-17 動物生息地として重要な地域

No.	市町名	件名	備考	判断理由※
1	仙台市	七北田川 (中流域～河口)	野生動植物のハビタット，生態系回廊（生態系コリドー）として重要。川に接する地域の環境変化が著しく，動物の生息環境・移動経路としての重要性がとて大きくなってきている。河川周辺のヨシ原はオオセッカ等希少な鳥類が生息する重要な自然になっている。環境省の東北地方太平洋沿岸地域重要自然マップの重点エリアに含まれる。【対象：哺乳類、鳥類】	2,8
2		低地の水田地帯	野生動植物のハビタット，生態系回廊（生態系コリドー）として重要。セッカの繁殖，ホオアカの繁殖，四郎丸地区はメダカの生息地。居久根は低地における鳥類の生息地及び移動のための中継地として重要。 【対象：鳥類、魚類】	1,7,8
3		福田町の田園	市街地の内部に残されたまとまった広がり確保された田園生態系として重要。環境学習のフィールドとして重要。かつてはマガン，その他水鳥の渡来地としての利用もあった。 【対象：鳥類】	5,7
4		県民の森	市街地の南部に位置する緑地・公園である。市街地に残された動物の生息地，環境学習のフィールドとして重要である。 【対象：動物全般】	6,7
5		与兵衛沼公園	市街地の内部に残された，まとまりのある緑地，里地・里山植生であり，野生動植物のハビタット，環境学習のフィールドとして重要である。 【対象：動物全般】	1,6,7
6	多賀城市、 利府町	加瀬沼	加瀬沼緑地環境保全地域	—

※ 表3-7に対応する。

注) No.は、図3-9に対応する。

出典：「平成28年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（平成29年3月、仙台市）
「加瀬沼緑地環境保全地域学術調査報告書」（平成13年3月、宮城県）



凡 例

-  事業予定区域
-  市町界
-  区 界
-  動物生息地として重要な地域 (1~6)

注) 図中の番号は、表3-17に対応する。

出典：「平成28年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成29年3月、仙台市)
 「加瀬沼緑地環境保全地域学術調査報告書」(平成13年3月、宮城県)

図3-9 動物生息地として重要な地域

